

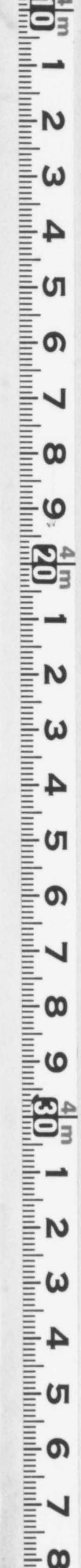
米國海上法 第二卷

寫本
米國海上法
第八百八十八號
第十三號
甲四冊內

第六號
第一架
第七

司法省
第三六號
寄贈圖書文庫

B 853
S /
5-16





B853
v S9-5
16

司法省記錄文庫

保
第八百八十八號
本三冊の内

米國海上法

自第十四章

至第十七章

14
章
5
24
章

五洲印刷局 1893



B 853
S 1
5-16

第十四章 海上律及ニ海上ニ関スル
契約ノ事

抑々海上律ナルモノハ一國一郡ノ法律ニアラ
ス全ク海上貿易ニ従事スル各國ノ共ニ遵守ス
ル所ノ法律ニシテ其規則ハ敢テ一國一郡ノ制
度習慣等ヨリ成レルモノニアラス全ク公理正
道ト及ニ海上ニ関スル條件ニ付商人航海者ノ
通商貿易ヲ規定スル為ソ世界中商業ノ盛大ナ
ル各國ニ於テ一般ノ便益ト正理トニ從テ往古
ヨリ共ニ採用セシ貿易上ノ習慣トノ二者ヨリ
成ルモノトス

有名ナル碩学者ノ一般ノ海上律ヲ編集シテ之
レニ注解ヲ附シ或ハ其法理ヲ論セシ法律書及

其注解書等數多アリ即今セシテシ氏カロテ
 アス、ストラカ氏ベリンカルシヨウク氏ウアリ
 シ氏ロツカス氏マリ子ス氏クレーラツク氏
 ボーチャル氏ボレーパー氏バルテマサス
 氏ウヰニニアス氏ラベツク氏タルガ氏及ヒ其
 他ノ諸氏ノ著書是レナリ然シテ此等ノ著書ハ
 各國ノ能ク明知スル所ノモノニシテ各國共ニ
 之ヲ以テ海上航海律上ノ証拠ト為サ、ルモノ
 ナシ(ボレーパー氏海上律及ヒ才三版ノケ
 ニ下氏法律注解才三卷ノ一葉并ニ二十一葉等
 ヲ參觀ス可シ)
 若シ此等諸種ノ法律各注解各等ニ記載セルモ
 ノ、綱領要畧ヲ擧ケテ本書ニ掲載スル時ハ其

紙教積ニテ初ノ期セシヨリモ大ニ之ヲ増加ス
 ルノ恐レアリ依テ爰ニ一言以テ此等ノ各中ニ
 ハ曾テ英國ノ「キニクス、ベン」廳ヨリ禁令状ヲ
 以テ其区域ヲ減縮セシ現今ノ詠国ニ於ケル規
 則ニ類似スルモノ、如キハ一モ之ヲ掲載セル
 モノアラサルヲ示スノミ思フニ訴訟ノ條件
 ノ地方内ニ於テ起リタルト海岸ニ於テ起リタ
 ルト又ハ其條件ノ鈐印ノ証書ヲ以テ約セルモ
 ノニ係ルト無印ノ証書ヲ以テ約セルモノニ係
 ルト又ハ之ヲ約スルニ海岸ニ於テセシト船中
 ニ於テセシト又ハ通常ノ各式ヲ以テセシト非
 常ノ各式ヲ以テセシト等ノ問題ノ如キハ曾テ
 此等海上律ノ立法者法律家等ノ心中ニ滲入セ

サルモノ、如ク此等ノ人々ハ特ニ其意ヲ此等
 ノ問題ニ全ク属サル治理ノ海上ニ関スルモ
 ノニ注~~キ~~然シテ主トシテ船舶、船積及ヒ海上貨
 場等ニ関スル雇人、契約、狂害、不慮ノ眞害等ノ訴
 訟ニ付テ論セリ(ハルテサス)海上律才三卷ノ
 四百五十一葉ヲ參觀ス可シ
 然レモ海上律ナルモノハ固ヨリ之ヲ以テ海上
 ノ契約ヲ規定シ又ハ之ヲ遂行セシムルモノニ
 係ルモ尚ホ海上ニ関スルモノニアラサル契約
 ハ仮令海上ニ関スル契約ノ豫約ニシテ之レト
 直接ノ関係アルモノニ係ルトモ亦其権内ニ
 属サルモノトス故ニ海上保険ノ契約ハ全ク
 海上ニ関スル契約ナリト虽モ其保険ヲ為ス可

キヲヲ約スル契約ハ海上ニ関スル契約ニアラ
 ストス~~ス~~依テ若シ斯ル契約ニ違背シテ其保険ノ
 契約ヲ為サス若クハ之ヲ為スモ其契約ノ主々
 ル條件ノ初メ約定セルモノト全ク相異ナル時
 ハ仮令現ニ約定スル保険ノ契約ニ関スル訴訟
 ノ裁判権ハ海上裁判所ノ権内ニ属スルモ其違
 約ニ関スル訴訟ニ至テハ全ク其権内ニ属サ
 ルモノナリ之レト同一轍ニテ船舶ノ雇入ニ付
 テモ亦然リ其雇入ハ全ク海上ニ関スル雇入ニ
 シテ其雇船ノ契約ハ海上裁判所ノ権内ニ属ス
 ル契約ナリト虽モ唯タ其雇船ノ契約ヲ為シ若
 クハ他人ヲシテ為サシム可キヲ約スル契約
 ニ至テハ全ク海上裁判所ノ権内ニ属サルモ

ノナリ何トナレハ其契約ハ海上ニ関スル契約
アラサルニ依リ敢テ之レニ海上律ノ規則ヲ適
用ス可キモノニアラサルヲ以テナリ但シ此等
ノ區別ハ数多ノ訴訟中ニハ固ヨリ未タ以テ充
分判然タラサルモノナキニアラスト虽モ尚ホ
廣ク数多ノ訴訟ニ付テ觀ル時ハ必ス之ヲ了解
シテ其區別ノ最モ貴重ナルヲ推知スルニ足
ル可シ

然レモ海上ニ関スル契約ト否ラサルモノトヲ
判定スルハ固ヨリ容易ノ事ニアラスト又ハ海上
ニ関スル條件ト否ラサルモノトノ區別モ亦未
タ充分之ヲ論セシモノアラスト虽モ蓋シ契約
ノ條件ノ海上ニ関スルト否トノ區別ハ全ク訴

訟ノ條件ノ海上貿易ノ總代理人ニ称ス可キ船
舶若クハ通商貿易ノ公道タル海上等ニ関スル
ト否トノ如何ニ依テ判定スルヲ以テ最モ正確
ナリトス思フニ凡ソ國トシテ苟クモ航海ヲ為
シ得可キ河流又ハ船舶航海船等ヲ有スル國々
ニ於テハ各國共ニ此等ヲ海上律ノ管轄ニ屬セ
サルモノナカル可ク故ニ若シ訴訟ノ苟クモ船
舶若クハ航海ヲ為シ得可キ河流上ノ貿易ニ関
スルニ於テハ其訴訟ハ海上律ノ管轄ニ屬スル
モノニシテ即チ海上航海上ノ裁判権内ニ屬ス
ルモノナリ然シテ海上律ノ何物タルハ往古ヨ
リ海上航海上ノ裁判権ヲ創立シ又ハ海上貿易
ヲ規定スル法律ヲ大ニ研究セシ國々ニ於テ各

各其国語ヲ以テ海上律ニ附セシ標題ノ言詞ヲ以テ之ヲ徴スルニ足ル可ク然シテ其題名ハ或ハ之ヲ称シテ海上律ト云ヒ或ハ航海律ト云ヒ或ハ船舶船積ニ関スル法律ト云ヒ或ハ海上ノ通商貿易ニ関スル法律ト云ヒ或ハ航海法ト云ヒ或ハ海上法ト云ヒ或ハ船舶律ト云ヒ或ハ海上ノ上案内ト云フモノニシテ此等ノ多クハ前既ニ記載セシ「商人航海者船長等ノ間ノ訴訟ノ為メ古人ノ制定セシ約定制法、法例等ヲ包含スル領事ノ書冊」ナル標題中ニ於テ簡草ニ論セシモノナリ

然シテ此等各国ノ海上律ニ於ルニ一トシテ潮水ノ干満ヲ以テ其管轄内ニ属スルト否トヲ區別

スルモノナク又ハ一モ港江、曲海、或ハ地方等ヲ例外ニ属スルモノモ無ク又契約ノ如キハ之ヲ結フニ非常ノ各式ヲ以テセシモノト又ハ印約或ハ無印約ヲ以テセシト又ハ罰金ノアルト否ト又ハ陸地ニ於テ約セシト船中ニ於テ約セシトヲ問ハス唯々未ダ疑ヒナキ能ハサルモノハ大洋上ノ通商貿易ノ代人ノナル船舶航海船長航海者等ノ此等海上律上ノ裁判権内ニ属スルヤ否ヤノ如何ニ在リ爰ニハルテサス氏ノ言ニ依ルニ航海及ヒ航海者等ニ関スル總テノ事件ハ海上律ニ属スルモノナリト（ハルテサス氏海上律才三卷ノ四百五十一葉ヲ參觀ス可シ）爰ニ無用ノ復言ヲ免カル、为ソ前章中ニ於テ

既ニ論述セシ昏類中ノ大要ヲ枚舉シテ以テ尚
ホ航海及ヒ航海者ニ関スル條件ノ海上律上ニ
屬スル一ヲ証明ス可シ蓋シ此等ノ昏類ナルヤ
是レニ由テ觀ル時ハ此等ノ條件ハ各國各時代
共ニ準テ同一様ニ之ヲ海上律ノ權内ニ屬セシ
一ヲ後スルニ足ル可シ即チ

總テ海上、大河其他海水ノ出入スル河川、港
江若クハ其他ノ場所ニ於ケル訴訟、負債、為
換券、保險証書、計集昏、雇船証昏、積荷目録及
ニ其他雇船ノ船債トシテ延滞ニ或ハ船舶
ヲ雇入ル、為ノ貸附シ或ハ海上ニ於テ船
船ノ損失スルニ於テハ貸主ノ損失ニ歸ス
可キ約ヲ以テ貸附セル海上ヲ經テ辨償ス

可キ金額等ニ関スル契約及ヒ其他ノ條件
損害等ニ関スル裁判權ヲ有ス可キ云々(本
昏ノ才五章中ニ掲載セル水師提督ヲ余ス
ル特許狀ヲ參觀ス可シ)

又ハ商人船主、船長、船負、航海者、船匠等ニ関
スル其他ノ條件ノ裁判權云々(本昏ノ才五
章中ニ掲載セル水師提督ニ重罪裁判ノ委
任ヲ為シタル一項ヲ參觀ス可シ)

商人、航海者及ヒ船長等ニ関スル訴訟ノ為
メ古人ノ制定セル約定、法例及ヒ制法(本昏
ノ才十一章中ニ掲載セル海上領事昏ノ一
項ヲ參觀ス可シ)

船舶及ヒ航海者ニ関スル法律(バルテスガ)

ス氏海上律才五卷ノ七葉及ヒ九葉ヲ参観
ス可シ

海上、船長、航海者、商人及ヒ此等ノ者ノ所行
ニ関スル決議會(本書ノ才十一章中ニ掲載
セルラレロシ)ノ決議會ノ一項ヲ参観ス可
シ

船長商人等ノ遵守ス可キ海上律ニ関スル
法例(本書ノ才十一章ニ掲載セルラムスタ
ルガム)ノ習慣法ノ一項ヲ参観ス可シ

商人船長等ノ制定セル海上律(本書ノ才十
一章中ニ掲載セルウキスベリ)ノ法律ノ一
項ヲ参観ス可シ

商品及ヒ其他海上ニ輸出スル物品ニ関スル

案内書(本書ノ才十一章中ニ掲載セル海上
案内書ノ一項ヲ参観ス可シ)

総テ商人間又ハ船主間又ハ船主ト商人或
ハ其他ノ者トノ間ニ於テル航海上ニ関ス
ル民事ノ訴訟云々(本書ノ第九章中ニ掲載
セル海上裁判所判事ノ委任状ノ一項ヲ参
観ス可シ)

此等ノモノハ則チ曾テ百年前歐羅巴亞米利加
ノ文明各國ノ海岸中ニ行ハレシ海上律ノ最モ
モ旧法ニシテ且最モ効カアリシモノヨリ拔萃
セシモノナリ然シテ總テ爰ニ此等ヲ蒐集シテ
觀ル時ハ海上律ナルモノハ全ク船舶ト海上貿易
トニ関スルノ法律タルヲ徴スルニ足ル可シ

第十五章 船舶及航海船ノ事

船舶トハ普通ノ語ニシテ法律上ニ在テハ航海船ナル語ト取テ異ナルトナク然テ河川海上大洋上ノ運漕ニ使用スル蒸氣機関ノ船舶ヲ示スノ語ニ係ルモノトス

獨木舟ハ元ト破烈スル蓋ノ水面ニ流浮スルヲ觀テ發明セシモノニ係ルノ旧語ノ果シテ眞実ナルヤ否又才一ニ海上ノ運轉運漕等ノ使用ニ供セシモノハ初ノ筏ヲ以テセシト又ハ海上ヲ運轉スルノ方法ハ元ト介蟲ノ翼或ハ水鳥ノ蹠ヨリシテ發明セシト等ノ果シテ実事ナルヤ否ヤハ未タ深ク信スルニ足ラスト虽氏船舶航海船等ハ元ト其建造ノ或ハ獨木船筏等ノ如

キモノアリ或ハ之ヲ運轉スルニ帆橈等ヲ以テセシモノアリテ古ノ文明藝術ト共ニ技術學藝ノ進歩スルニ從ヒ漸次從來ノ不便ヲ去リテ新タナル方法ヲ發明シ然シテ終ニ最モ驚ク可キ完全ナル船舶ヲ製出スルニ至リタルモノニシテ又總テ此等ノ船舶ハ其粗惡ナル桴船タルノ時代ヨリシテ今日ノ蒸氣船ニ改進スルニ至ル迄始終海上ノ搜查貿易等ノ使用ニ供シ又ハ収奪防禦勝利等ノ器具ト为リタルトハ敢テ疑ヒヲ容レサル所ナリ

船舶ト航海船トヲ區別スルニハ海上律中其量額力量、目的及ヒ其運轉ノ方法等ヲ規定セサル可カラサルノ論說起リシト徃々之レアリト虽

氏爰ニ書冊ニ記載スル判決例ニ拠ルニ此等ノ
 船舶ト航海船トハ其間一モ區別アラサルモ
 トス何トナレハ此等ハ軌近ノ建造ニ係ル一層
 力量ノ強大ナルモノニ比スレハ其量額共ニ短
 少ニシテ且往時ハ唯夕野鄙ナル農業上ノ使用
 ニ供セシモノニ過キサリシヲ以テナリ然レモ
 軌近ノ建造ニ係ルモノニ至テハ初ノテ海上律
 ヲ布告シテ之ヲ施行セシ国々ト時代トノ船舶
 航海船等ニ比スレハ其構造大ニ改良セルヲ以
 テ敢テ船舶ト航海船トヲ同一視マルヲ得サル
 可ク又航海船ノ如キハ之ヲ運轉スルニ或ハ風
 力、潮水ニ藉リ或ハ橈ヲ以テシ或ハ蒸氣カヲ以
 テシ或ハ動物或ハ人手ヲ以テシ又ハ他ノ船ヲ

以テ挽拽スルモ其間一モ區別ナカル可シ
 マレー子ス氏曰ク船舶トハ諸種ノ船舶ヲ示スノ
 語ニ係リテ航海船トハ航海ノ種類ヲ示ス為メ
 數年未通常使用セシ普通ノ語ナリ故ニ「カルラ
 ック」「ガルレ」「ニン」「ガルレ」「アス」「ガルリ」「セ」ニテウ
 リ「ビ」ウ「ス」ニ名軍艦、快船、及ヒ其他ノ種類ノ
 船舶ノ如ク船舶ノ種類ノ區別ヲ記載スルハ敢
 テ必要ニアララスト固ヨリ各國共ニ各々船舶ノ
 建造、機装、航海ノ方法ヲ異ニシ又ハ其國船トス
 ルモノモ亦各々異ナル可シト虽モ此等ハ一ト
 シテ船長ト船員トヲ以テ警守シテ魚獵ト唯夕
 商用トニ使用スルヲ問ハス海上ノ運漕貿易等
 之使用ニ供スル船舶航海船ニアラサルナカル

可シ然シテ匾船、貨船、渡船又ハ筏、木材船等ノ如
キモ其際ニ在テハ省テ之ヲ船舶或ハ航海船ト
シテ之レニ他ノ航海船ト同一ノ海上律ヲ適用
スルモノトス他ナシ海上律ノ管理ニ屬スルト
否トハ敢テ船舶ノ構造、建築、機装、旅装或ハ運轉
ノ方法等ノ如何ニ依ルニアラス全ク海上運漕
ノ器具トシテ船舶ヲ使用スル目的ノ如何ニ依
ルヲ以テナリ(但シ各國各時代ニ於ケル船舶ノ
大ニ異ナルモノヲ講究スルハ敢テ贅事ニアラ
サル可ク依テ本文中ニ之ヲ論ス可シト虽モ斯
ル講究ハ本章ノ目的外ニ屬スルヲ以テ尚ホ後
章ヲ待ツテ論スルノ期アル可シ)

合衆國ノ制法中ニハ船舶航海船ノ量額ニ関スル

モノ数多之レアルカ此等ノ制法中ニ船舶航海
船トシテ規定セル種類ノ船舶ハ總テ海上律上
ニ在テモ亦省テ船舶航海船ト倣サ、ル可カラ
ス然シテ爰ニ登簿律ニ拠ルニ總テ外國トノ通
商ノ使用ニ供スル船舶航海船ハ快船、匾船、兩桅
船、單桅船ト及ヒ其他ノ船トヲ問ハス之ヲ簿丹
ニ登記セサル可カラストシ又他ノ制法中ニハ
五十噸以下ノ船舶ヲ記載スルモノモ亦少カラ
ス

總テ海岸或ハ航海ヲ為シ得ベキ河川上ノ通商
貿易ノ使用ニ供スル船舶又ハ渡船及ヒ其他ノ
船舶等ノ若シ五噸以上ノ貨物ヲ積入ル、モノ
ニ係ル時ハ之ヲ簿丹ニ登記シテ免許ヲ受ケサ

ル可カラサルモノトマ然シテ此等種類ノ船舶
ハ制法中一トシテ之ヲ船舶航海船トシテ記載
セサルモノナシ曾テコラングス氏カ世界中ノ
最モ廣大ナル海上ヲ経テ世人ノ未タ曾テ知ラ
サル大洋ニ航行スルノ使用ニ供セシ船舶中ニ
ハ我カ湖水河川上ノ通商貿易ノ使用ニ供スル
小船ヨリモ尚ホ小形ナルモノアリ然シテ亞米
利伽ノ才一ノ発見者ノ乗組ンテ世人ノ未タ曾
テ知ラサル大洋ニ航行セシ小船ノ一艘ハ其噸
數僅カニ十五噸ニ過キヌ又フロビツシヤル氏
ノ乗組タルニ艘ノ船舶ハ其噸數二十噸ト二十
五噸トニシテ又ハインフレードキルベルト氏ノ乗
組ミタル船舶ノ如キハ其噸數僅カニ十噸ニ過

キスト云フ

又ハ特ニ農業耕作上ノ産物或ハ田野ノ国産或
ハ機械店ノ製造物等ノ賤劣ナル通商貿易ノ使
用ニ供スル船舶ノ如キモ亦同様者テ之ヲ船舶
航海船トシテ海上律ノ管理ニ属ス可キモノト
ス然シテ此等船舶ノ之レニカントシヨリ茶ヲ積
入レ又ハリヲヨリ加非ヲ積入レ又ハモール
ヨリ綿ヲ積入レ又ハリツチモンドヨリ烟草ヲ
積入レ又ハハルテモールヨリ麩粉ヲ積入レ又
ハリウアルアール或ハヒラテルヒア等ヨリ石
炭ヲ積入レ又ハウヘヒルヒールドヨリ葱ヲ積
入レ、モノニ係ルト又ハ甲港乙港トノ間ノ田
村邑等ヨリ豕肉、家禽、牛酪、乾酪、菓物或ハ其他ノ

産物等ヲ積入ル、モノニ係ルトハ法律上一モ
 彼我ノ別アルヲナカル可シ他ナシ此等ハ一ト
 シテ其地方ノ農業耕作上ノ産物ニアラサルナ
 キヲ以テナリ之レト同一轍ニテ外國ノ製造ニ
 係ル生糸織物、縮緬、組糸、衣服又ハ外國ヨリ輸入
 スル穀科等モ亦然リ此等ハ内國ノ製造ニ係ル
 長鞋、短鞋、衣服、林檎酒、大麥酒、鞋、栓其他合衆國ノ
 河川、曲海等ノ海岸、通商貿易ノ使用ニ供スル
 兩桅船、單桅船等ニ屢々積入ル、産物ノ粗悪ナ
 ル物品等ヨリモ一層貴重ナル船貨或ハ商品ニ
 アラス又ハ一層貴重ナル物品ニモアラス此等
 ノ物品モ亦其地方ノ産物ニシテ又之ヲ運送マ
 ル船舶ハ海上律ニ属スル船舶航海船タルヲ以

テナリ然レテ爰ニ往古ヨリ軌迹ニ至ル迄ノ海
 上律、法律書ニ秘ルニ斯ル種類ノ通商貿易ノ使用ニ
 供セシ船舶ハ一トシテ海上律ノ管理ニ属スル
 船舶中ニ包括セサルナシト虽モ此一事ニ付曾
 テ如何ナル疑問ヲ起リシヲアルヤハ容易ニ之
 ヲ搜查スルヲ得サルナリ

曾テ堀河及ヒ堀河ノ船舶等ノ海上裁判所ノ管
 轄内ニ属スルヤ否ヤニ付疑問ノ起リシヲアル
 カブウーシ氏ヨリホル子ツト氏ニ對スル訴訟
 ニ於テ判事ホツアキンソン氏ト及ヒミツユル
 ミツタ氏ヨリイウイス氏ニ對スル訴訟ニ於テ
 判事ヘツブ氏トハ曾テトラママビフヘルソン
 氏ノ訴訟ニ於ケル判決例ニ從ヒ之ヲ判決シテ

堀河ハ人造ニ係ル水面ニシテ且潮水ノ出入ス
ルモノニアラサルヲ以テ海上裁判所ニ於テハ
其場所ノ裁判權ヲ有セサルモノトセリ然レモ
此判決例ハ尔後ゼ子シ、子井、フ氏ノ訴訟ニ
於テ航海ヲ為シ得可キ場所ト否トヲ判然區別
セルヲ以テ觀レハ今ヤ該訴訟ノ判決ニ依テ全
ク廢物ニ屬シ然シテ堀河ニ関スル訴訟ハ總テ
海上裁判所ノ權内ニ屬スルモノトス
又堀河船ニ付テハ判事手ルソシ氏ハアーシア
ルホル氏ノ訴訟ニ於テ左ノ說ヲ辨明セリ曰ク
「此等ノ船舶ハ海上裁判所ノ權内ニ屬スルモノ
ニアラス何トナレハ此等ノ船舶ハ特ニ堀河ノ
水面ヲ横過スルノ使用ニ供スルモノニシテ敢テ

運轉ノ自在ノ方法ヲ有スルニアラサルカ故ニ
未タ之ヲ目シテ船舶ト称スルニ足ラサルヲ以
テ「アリト」又尔後ジヨシ、ゴ、コール氏ノ訴訟ニ於
テモ亦判事コンタリニガ氏ノ前ニ於テ同一ノ
說ヲ主張セシカ此說タルヤ裁判所ニ於テ之ヲ
擯却シ又未タ曾テ報道セシ「アラサル」ウアル
ラス氏ノ著書「ハ卷若クハ九卷中ニ記載セル
ゼームス、イ、イ、イ、ガ氏ノ訴訟ニ於テハ判事子
ルソシ氏ハ「ラス」ニシテ「グ」トシ氏ノ著書「一」卷ノ
五百三十九葉中ニ記載セル「ド」トシ「ラ」スシ
「グ」トシ氏ノ北和蘭陀ノ堀河内ニ於テ起リタル
衝突ノ英國海上裁判所ノ權内ニ屬スル「ト」ヲ主
張セシ「ガイ」ア「ナ」氏ノ訴訟ニ於ケル判決例ヲ嘉

納シテ之ヲ引用セリ然リ而シテウヘルランド
ノ堀河ハイリートヲニタリヲトノ潮水ニ接続
ニテニント、ローレンスノ曲江ニ依リ大洋ト共
ニ此等ノ潮水ニ接続ナル巨大ノ潮水河川等ニ
連合スルモノニ係リ又イリイ堀河ヲスウヘゴ
堀河等モ亦新約克ニ於テ大洋ト共ニ此等ノ潮
水河川等ニ連合スルモノニ係リ又北部ノ堀河
ハ新約克ニ於テ大洋ト共ニイヤンプレインノ
湖水ニ連合スルモノニシテ總テ此等ノ湖水堀
河等ハ外國ノ所領ニ連續シ今ヤ内外ノ通商貿
易ノ最モ盛ナル場所ト为リ又其通商貿易ノ
使用ニ供スル船舶ハ或ハ之ヲ称シテ堀河船ト
云ヒ或ハ湖水船トモ云フモノニシテ其噸數ノ

如キハ百五十噸ヨリ二百五十噸迄ニ上ルモノ
アリテ總テ此等ノ船舶ハ合衆國ノ船舶トシテ
簿冊ニ登記シテ免許ヲ受ケサル可カラサルモ
ノトシ然シテ此等ノ連續ナル航海ヲ为シ得ハ
キ水面ニ依リ斯ル船舶ヲ以テ礦山森林地所等
ノ產物ト廣大ナル地方ノ製造物等ヲ世界ノ公市
場ニ輸出シテ益々此等ノ改良ヲ謀ルモノナリ
又シウイズ堀河ハ東海ト共ニ既ニ地中海ニ連續
シヤナマノ堀河ハ二箇ノ大洋間ノ公道ト为ル
ノ期將サニ近キニ在リ曾テ判事長テー子ー氏
セイ子シー、ナ井ーフ氏ノ訴訟ニ於テ彼ノト
マス、セフヘルソン氏ノ訴訟ニ於タル判決ヲ論
シテ曰ク「若シ此判決例ヲ模範トシテ之レニ從

フ時ハ全ク誤謬ノ判決例ニ從フモノニシテ裁
判所ニ於テ斯ル判決ヲ為シタル所以ノモノハ
他ナシ是レ全ク當時未タ今日ノ如ク此問題ヲ
以テ必要ナルモノトセサルニ依リ今日ノ如ク
細心翼翼々注意ヲ尽シテ其商議ヲ為サ、リシニ
職トシテ依ルモノニシテ其判決ヲ為シタル賢
明ナル人ト雖モ今日ニ在ラハ蓋シ是ノ如キ判
決ヲ為サ、ル可シ何トナシハ此判決ハ千八百
二十五年ヲ以テ為シタルモノニ係リテ當時西
部ノ河川及ヒ巨大ナル湖水上ノ通商貿易ハ今
日ニ比スレハ未タ甚タ微弱ニシテ且今日ニ於
ケル如ク必要ナルモノトセサルヲ以テナリト
然シテ此等ノ場所ニ於ケル通商貿易ノ比例上

ヨリシテ觀ル時ハ未タ以テ十噸以上ノ貨物ヲ
積入レタル船舶ヲ以テ海上ヨリ進航スルヲ得
ヘキ此等ノ水面ヲ以テ航海ヲ為シ得可キ水面
ニアラザルモノトシ又ハ此等ノ水面ヲ航行ス
ル船舶ヲ以テ航海船ニアラザルモノトスルノ
正当ナル理由アラサルナリ
船舶トハ通常船舶、船具、網具、器具等ヲ具備スルモノ
ニシテ又蒸気船ハ此等船具等ノ外尚ホ蒸気機
械ノ具備スルモノヲ以テ一艘ノ船舶ナリトマ
然シテ此等ノ船舶、船具、網具、器具等ノ中ニハ船
船ヲ組織スル船体、帆樑、帆架、横柱又ハ網具ニ屬
スル樁、緯、帆索又ハ船具タル帆又ハ器具タル錨
及ヒ其他船舶ノ使用ニ供スル教子ノ器物等ヲ

包含スルト虽尾端舟輕荷ノ船底ニ入ル石砂等等
ハ其中ニ包含セサルモノトス
又船舶ハ役令之ヲ建造セシ原料ノ其船舶ノ循
理ト変改トニ依リ漸次全ク変換スルモ亦同一
ノ船舶ヲラサルナシ然レモ若シ再々建造スル
ノ意ナクシテ全ク之ヲ解キ離シタル時ハ役令
同一ノ材料ヲ以テ全ク同一ノ方法ニ依リ再々
一艘ノ船舶ニ組立ルモ尚ホ其船舶ハ同一ノ船
舶ニアラスシテ全ク他ノ船舶ト为ルモノトス
オ十六章 海上湖水及ヒ河川等ノ事
総テ船舶ハ一艘ノ船舶ヲ組織スルニアラスレ
ハ全ク廢物ニ属スルモノトス何トナレハ之ヲ
使用スルハ清水潮水若クハ否ラサレハ流水溜

水上ニ限レルヲ以テナリ然リ而シテ海上大洋
大洋等ノ章勺ハ徃々海上裁判權ナル言詞ト共
ニ使用スルモノニ係リテ大洋トハ河辺海岸曲
海曲江等ヨリ巨大ナル水面ヲ區別スル为メ使
用スルノ一勾ニ係リ又大洋等トハ複數ノ言詞
ニシテ即チ數多ノ海上大洋ヲ包含スル巨大ノ
水面ヲ示スノ語トス
海上トハ法律上ノ意義ニ拠ル時ハ果シテ如何
ナルモノヲ示スノ語ニ係ルヤ曰ク一國若クハ
一國人民ノ之ヲ使用スル時ハ其人民ノ船舶航
海船等ヲ以テ通商貿易ヲ为メ所ノ航海ヲ为シ
得可キ巨大ナル水面ヲ示スモノニ係リ又大洋
中ノ諸島ニ於テ使用スル時ハ大洋ヲ示スモノ

ニ係リ又歐洲南部ノ國語ニ於テハ内地ノ海上
ヲ示スモノニ係リ又「バルテック」海「ホアイト」海
「ゾラーデル、ジ井」海「ビ子ウア」海「黒海」マルモラ
海「アヅツ」海「カマピア」海「アルアル」海「紅海」
「上海カリ」井「海」等ニ於テハ全ク此等海上ノ水面ヲ
示スモノニ係リ又羅典希臘等ノ古今ノ國語及
ヒ此等ノ海上ノ海岸ニ住居シテ此等ノ水面ニ
於テ通商貿易ヲ爲シタル者ノ使用セシ國語等
ニ於テハ此等ノ水面ハ海上ニシテ其水面ヲ航
行スルモノハ船舶ヲリトヌ又彼ノ才百七ノ頌
歌中ニ所謂船舶ヲ以テ海上ニ進航スル者ノ一
句ハ「マアテウジニト」ノ聖骸中ノ希臘語ト「ウア」
ゲ「ト」ル羅典語ニ名記マ中ノ羅典語トヲ及記セル

モノナリ然シテ總テ此等ノ國語ニ於テハ海上
ナル語ハ例ヘハ「ガリ」井「小海」トカバルノヲ
川港内ノ船舶ヲ示ス爲メ之ヲ使用セルカ如ク
全ク海上ト船舶トヲ示スモノニシテ書冊中總
テ航海ヲ爲シ得可キ水面ト航海船トヲ示スニ
當テ常ニ此語ヲ使用セサルモノナシ又ウ井ル
ギル氏ハ「マウア」河ヲ示ス爲メ海上ナル語
ヲ使用シ其他羅典語ヲ以テ著述セル記者ノ總
テ航海ヲ爲シ得可キ巨大ナル水面ヲ示スニ當
テハ常ニ此語ヲ使用セサルモノナク然シテ若
シ此語ヲ以テ別段ノ使用ニ供マル時ハ之レニ
形容詞ヲ附添セリ
總テ水面ノ海上ニ屬マルト否トハ其潮水ノ干

諸海

潮水

満ノ人目ニ觸ル、ト否トノ如何ヲ問フヲ要
セス何トナレハ「バルテツク」海黒海「カスピア
シ」海「アルアル」海「マルモラ」海「アツツ」海「チツ
ド」海「ガリソリ」海等ニ於テハ一モ潮水ノ干
満ノ人目ニ觸レサルヲ以テナリ然シテ余ヲ
以テ觀ル時ハ總テ潮水ノ干満ハ人目ニ觸ル
可キモノト斷言セサルヲ得ス然ル所以ノモ
ノハ他ナシ若シ潮水ノ果シテ大陰ノ引カニ
依テ干満スルモノニ係ル時ハ其引カハ水面
一般普及セサルノ場所ナク固ヨリ得テ之ヲ
防遏ス可キモノニアラサルカ故ニ總テ水面
ノ巨大ナル場所ニ於テハ潮水ノ干満アラサ
ルノ理ナキヲ以テナリ然シテ潮水ハ固斷ナ

ク流動スルモノニ係ルカ故ニ其干満ヲ認
定スルハ固ヨリ容易ノ業ニアラスト虽モ
恰カモ精細ナル寒暖計ヲ以テ大陰ノ冬期
ノ光線ノ温度ヲ測量スルカ如ク若シ大陰
ノ引カヲ量定スル時ハ之ヲ認定スルハ敢
テ難キニアラサル可シ然シテ若シ裁判所
ニ於テ其裁判権アルト否トハ訴訟ノ種類
ニ依ルニアラスシテ全ク斯ル潮水ノ干満
ニ依ルモノトスル時ハ裁判所ニ於テハ代
言人ノ弁論ヨリモ及テ斯ル器械ノ必要タ
ルニ至ル可シ
地中海ハ往時ニ在テハ通商貿易ノ最モ盛
大ナル場所タリシハ世人ノ共ニ明知スル

所ニシテ又諫海内ニ於ケル訴訟ハ総テ海上航海上ノ裁判権内ノ訴訟ニ屬セシトハ亦世人ノ共ニ信シテ曾テ疑ヒヲ容レサル所ナリ然ルニ諫海ノ海水ハ恰カモミスシツ川ニ於ケルカ如ク常ニ一定シテ同一ノ方向ニ流通シ又「ボルテツ」海「ホアイ」上海黒海「カスピア」ニ海等ハ一モ潮水ノ干満アラスト虽氏我カ国ノ内海タル西部ノ巨大ナル湖水ノ如ク其水面ノ中央ニ高低アリ然シテ其高低アル所以ノ原由ハ未タ曾テ判然タラスト虽氏蓋シ空氣ノ壓力若クハ風力若クハ大洋ノ潮水若クハ流動ノ不定ナル水流等ノ曲彎シタル地中ノ海峡ヲ經過シテ其勢力ノ為

々ニ激動スルニ依ル可シ顧フニ若シ西大陸ノ東大陸ニ先ツテ「オ」ニ文明ニ進ニテ通商貿易ノ場所ト为リ其内海ニ於テ「ボ」キ都府ヲ立テ船舶ヲ建造シタルニ於テハ蓋シ「米」國ノ内海タル我カ廣大ナル河川湖水等ハ既ニ我カ国家ノ榮譽トスル海上ノ一大事業ノ場所タリシ如ク亦尙ノ通商貿易ノ一大戲場ト为リテ後世ニ至ル迄尙界ノ海上律ヲ制定ヒシ場所タルノ光榮ヲ受クルニ至リシハ敢テ疑ヒヲ容レサルナリ
往古ヨリ裁判権ノ有無ニ関シテ潮水ノ如何ナル問題ノ起リシ「ア」アルヤヲ講究マルハ敢テ難キニアラス然シテ先ツ「英」國ニ「松」ルニ諫國

ニ於テハ潮水ノ干満ハ唯々潮水ノ充滿スル場
所ヨリ退去スル場所ニ至近ノ間ノ場所ノミニ
関シテ起リタル問題ニシテ此等ノ區域内ハ潮
水ノ干満スル場所トシ満水ノ充滿スル間ハ海
上裁判所ノ裁判権内ニ屬スルモノトセリ然レ
モ海上裁判所ノ裁判権ノ有無ニ関スル一般ノ
問題ニ付テハ曾テ斯ル問題ノ起リシトナク然
レテ潮水ノ干満スル場所トハ海岸ノ潮水ノ充
満スル場所迄ノ間ヲ示スモノニシテ潮水ノ人
目ニ觸レサル場所ニ至ル迄ヲ示スモノニアラ
ス又ハ潮水ニアラサル水面ニ付テモ亦未タ曾
テ斯ル問題ノ起リシトナシ然レモ爾後該国ニ於
テハ海上裁判所ト法律裁判所トノ間ニ争論ノ

起リシ間前既ニ論述セル如ク法律裁判所ニ於
テ其検査ヲ為スヲ口実トシテ如何ナル訴訟ヲ
モ之ヲ収奪セシヨリ終ニ潮水ノ充滿スル所ヲ
以テ航海ヲ為シ得可キ河川及ヒ海岸中ノ海上
裁判所ノ裁判権内ニ屬スル場所ノ境界トセリ
但シ一般ノ海上律ニ於テハ海上ニ屬スル處
或ハ海上律ノ適用等ヲシテ一モ潮水上ノミニ
制限スルモノナク此等ノ處ニ適用等ハ唯々船
舶航海船ニ関スル事件ト及ヒ此等ノ船舶航海
船ヲ以テ航海シ或ハ之ヲ所有シ使用シ或ハ損
害ヲ加フル者トニ限レルニ過キサルナリ
又海上航海上ノ狂害犯罪等ノ全ク地方ニ屬ス
ルト否トニ付テハ漫リニ潮水ノ充滿スルト退

去スルトヲ以テ其犯所ノ大洋ニ屬スルト否ト
ノ境界トシ然シテ英國ニ於テハ法律裁判所ニ
於テ潮水ヲ以テ英國ノ内海ニ関スル裁判權ノ
有無ヲ區別セリ然レモ合衆國ニ在テハ仅令全
ク地方ニ屬スル條件ニ係ルモ尚ホ其條件ノ海
上裁判所ノ權内ニ屬マルト否トハ潮水ノ如何
ヲ以テ其區別ト為サスニテ其條件ノ収奪航海等
ニ関スルト否トヲ以テ區別シ然シテ十噸以上
ノ船舶ヲ以テ海上ヨリ進航マルヲ得可キ水面
ニ於テ犯シタル収奪モ亦總テ國會ニ於ケルモ
又ハ裁判所ニ於ケルモ共ニ許シテ之ヲ海上航
海上ノ裁判權内ニ屬スルモノナリ
又水面ノ増減或ハ其増減ノ定期或ハ其原由等

ハ毫モ裁判所ノ裁判權ノ有無ニ関スルモノニ
アラズ蓋シ水面ノ定期ヲ以テ増加氾濫マルハ
多クハ河川湖水等ニ在リテ此等ノ河川湖水等
ハ前既ニ論述セル別段ノ法律ト及ヒ其他未タ
曾テ論述セサル教多ノ法律トニ屬マルモノナ
リ故ニ爰ニ一言以テ唯タ此等ノ河川湖水等ハ
太陰ノ引力ノ如何ニ依テ合法ノ裁判權ト海上
律トニ屬マルヲ示スノミ

河川トハ物理学上ヨリシテ之ヲ論マル時ハ海上
ノ一部ナリトマ然レモ河川ノ之ヲ以テ海上裁
判所ノ裁判權内ニ屬マルト否トヲ判定スルニ
當テハ敢テ此地理学上ノ論理ヲ収用ス可キモ
ノニアラス此問題ニ付テハ其海上裁判所ノ權

内ニ属スルト否トハ全ク其河川ノ航海ヲ為シ
得可キモノニ係ルト否ラサルトノ如何ニ依ル
モノナリ他ナシ元来海上裁判所ニ於テ其裁判
権ヲ有スルト否トハ潮水清水又ハ水面ノ動静
其他河川ト大洋トノ間ノ區別ノ如何ニ依ルモ
ノニアラサルヲ以テナリ
左ニ論スルモノ、如キハ固ヨリ想像説タルニ
過キサルモノモシテ其一句一章ト虽モ尚ホ爰
ニ之ヲ論スルハ全ク贅言ニ涉ルニ似タリト虽
モ若シ言詞ノ解釈上狹隘ナル意義ヲ以テ廣大
ナル意義ノ言詞ヲ解釈セシトスルモ苟クモ本
書ヲ朗読セシ者ハ尚ホ其廣大ナル意義ヲ想起
シテ正当ナル解釈ヲ為スニ至ルノ便益ナキニ

アラサレハ必スシモ贅言ニ属スルニアラサル
可シ抑々地球ナルモノハ蓋シ陸地ト水面トノ
巨大ナルニ体ヨリ成ルモノニシテ「天神」ハ陸地
ヲ名ケテ地球トシ水面ノ集合スル一体ヲ呼シ
テ海上ト称セリ元来陸地ト水面トハ各々共ニ
諸種ノ名称アル教多ノ部分ヨリ成ルモノニシ
テ其普通ノ意義ニ於テハ決シテ同一物タルモ
ノニアラス然シテ陸地ハ彼令往々切斷スル所
ナキニアラスト虽モ其一体ノ全部全ク連続マ
ルモノニ係リ其中ノ山谷、平原等ハ或ハ大洋ノ
底下ニ在ルモノアリ或ハ人目ニ觸ル可キ地上
ニ在ルモノアリテ総テ海岬、海角、地峽、半島、島嶼
等ハ陸地ノ部分ニ属スルモノトシ又江、浦、曲海

港河川、海峡、湖水等ハ全ク海上ノ部分ニ属スル
 モノニシテ恰カモ樹木ノ枝葉ノ其幹木ニ於ケ
 ル又ハ人身ノ四肢、其身体ニ於ケルカ如キモ
 ノナリ故ニロニク島マテニ島新約克島心
 ヲトロー島ガウアルノ島ハルロシ島ランガ
 ルス島アラツクウヘルス島等ノ諸島ノ海岸ヲ
 洗滌スル我カ新約克州ノ區々タル群島ノ水面
 モ亦及令此等ノ群島ハ新約克州ノ地方海岸内
 ニ在リテ各々其四方共相互ニ連続スル尺度ハ
 僅カニ短銃ノ長サニ過キサルモ尚ホ大洋ノ一
 部タル性質ヲ失ハサルモノトス何トナレハ此
 等ノ諸島ハ西印度ノ諸島又ハガレシアニノ群
 島ヨリモ尚ホ互ニ接近スルカ故ニ海上ノ部分

ニ属サルモノニシテ海上ノ嶋嶼ト为スモノ
 ハ全ク海上ノ中央ニ集合スルモノニ限ルヲ以
 テナリ然シテ大洋トハ普通ノ意義ニ於テハ大
 洋ハ唯ク一箇ナリトスルカ故ニ恰カモ樹木ノ
 幹木ノ如ク水面ノ巨大ナル中央ノ集合体ニシ
 テ是レヨリ水濕ノ益奈氣ニ依テ陸地ニ流出シ
 然シテ河川ヲ經テ再ニ其根源タル大洋ニ流入
 スル所ノ巨大ナル水溜所ナリトス故ニ若シ全
 景ヨリシテ水面ノ全体ヲ觀ル時ハ所々ノ湖水
 ト及ヒ地中ノ水口并ニ砂石ノ河川トシテ除クノ
 外ハ全ク一体ナリトス斯ノ如キモノハ則チ水
 面ノ一体タル所以ノ地理学窮理学上ノ論理ト
 スル所ナリ又旧約全書ノ一章中ニ曰ク「水面

ノ集合スル一体ヲ称シテ天神ハ海上ト云フト然リ而シテ大洋及ヒ其河川江浦等ノ若シ其水面ノ一タヒ乾涸シテ再ヒ河川ヨリ流入スルニアラスシテ其地下ヨリ湧出シテ充滿スルニ於テハ亦彼我ノ別ナカル可ク然シテ巨大ナル河川ノ如キハ固ヨリ大洋ヨリ其距離遠カラサル可シト雖モ尚ホ大洋ト隔絶シテ大洋ノ水濕ノ陸地ニ滲透スルモノ、之レニ流入シテ是レヨリ河川ノ總テノ水道ニ再ヒ流入シ轉々流動シテ復タ更ラニ他ノ水道ニ流入ス可シ然ラハ則此等ハ總テ水面ノ一体ニシテ理論上ヨリシテ論スル時ハ半島、海岬、地峽、島嶼等ト雖モ海上裁判所ノ権内ニ屬スル場所ハ之ヲ目シテ陸地ニ

屬スルノ部分ト称スルヲ得ヌ又ハ曲海、江浦、海峽、港、河川等モ亦海上ノ部分ニアラサルモノト云ハサルヲ得サル可シ然レモ海上律ノ實際ノ目的ヨリシテ觀ル時ハ之ヲ適用スルト否トハ徒ラニ理論上ノ區域ヲ以テ制限セスシテ全ク通商貿易ノ目的、使用、主タル條件等ノ如何ニ依テ制限セスシテ全ク通商貿易ノ目的、使用、主タル條件等ノ如何ニ依テ制限セスシテ全ク通商貿易ノ目的、使用、主タル條件等ノ如何ニ依テ制限セサル可カラヌ是レ水面上ニ在テハ航海ヲ為シ得ルト否トヲ以テ其水面ノ海上裁判權ニ屬スルト否トヲ區別スル所以ナリ

英國ニ於テハ總テ河川ハ航海ノ妨礙ト為ル場所ニ至ル迄ノ間即チ海上ヨリ一ハ橋築ニ至

此等ノ場所ハ海上航海上ノ裁判権内ニ属スル
 モノトシ此等ノ場所内ニ於ケル訴訟ハ總テ英
 國ノ海上裁判所ニ於テ其裁判権ヲ有シ又英國
 殖民地ノ海上裁判所ニ於ケル裁判権ハ公河清
 水河川江浦等ニ至ル迄擴張セリ
 合衆國ニ於テハ千七百八十九年九月二十四日
 ヲ以テ司法上ニ関スル國會ノ第一ノ決議ヲ頒
 布シテ海上航海上ノ裁判権ハ十噸以上ノ船舶
 ヲ以テ海上ヨリ進航スルヲ得可キ總テハ水面
 上ニ至ル迄及テ可キ旨ヲ決定セリ然レテ此往
 古ノ決議ノ如キハ之ヲ以テ憲法上ニ規定セル
 モノヲ解釈セル貴重ナルモノトセリ
 尔後商人ノ雇入ヲ受クル船員ヲ管理規定スル

為ソ千七百九十年七月二十日ヲ以テ頒布セル
 決議ノ第六條ニ依リ「商人ノ雇入ヲ受クル即チ
 之ヲ及言スレハ國家ノ海軍ノ使益ニ從事セザ
 ル船員船舶航海船等ハ航海者ノ給料ニ関スル
 訴訟ニ付テハ之ヲ海上裁判所ノ権内ニ属シテ
 一モ海上潮水等ノ如何ニ関セス尔後又疾病ニ
 罹リテ職務ニ從事シ能ハサル船員ノ救助ヲ規
 定スル為ソ千七百九十八年七月十六日ヲ以テ
 頒布セル決議ト及ヒ之ヲ改正スル為ソ千八百
 二年三月三日ヲ以テ頒布セル決議トニ依リ何
 人ニ依ラス航海船其他端船筏匾舟等ヲ以テハ
 ウ、ラルレラニスト向テテ進航セントスル目
 的ヲ以テミスシツペ川ヲ航下マル者ハ合衆國

ノ船隻ナリト省倣ス可キ旨ヲ明カニ規定セリ
又海岸ノ貿易及ヒ漁獵等ノ使用ニ供ス可キ船
舶航海船等ヲ簿冊ニ登記シテ其免許ヲ受ケル
ノ及ヒ之ヲ規定スル等ノ為メ千七百九十三年
二月十八日ヲ以テ頒布セル決議、船舶ノ登記免
許等ニ関スル其以前ノ決議、海岸ノ貿易ニ関ス
ル決議ニ追加セル千八百十九年三月二日ノ決
議及ヒフロリダニ於テ輸出税噸税等ヲ徴収ス
ル為メ千八百二十二年五月二日ヲ以テ頒布セ
ル決議等ニ於テハ共ニ合衆國ノ航海ヲ為シ得
可キ河川ハ總テ其中ニ包含セリ
總テ此等ノ決議ニ從テ提起スル訴訟ハ海上裁
判權ヲ有スル合衆國ノ各裁判所ニ於テ其創立

ノ時ヨリ共ニ其裁決ト手續トヲ一ニシテ海上
航海ノ裁判權内ニ屬スル訴訟トセシヨリ終
ニ此等ノ訴訟ハ總テ海上航海ノ裁判權内ニ
屬スルモノト爲レリ故ニ航海ヲ為シ得可キ河
川ノ海上航海ノ裁判權内ニ屬スルトニ付テ
ハ規則手續又ハ此等ニ関スル法律理由又ハ國
會ノ決議又ハ此等ノ決議ニ從テ爲シタル裁決
等ノ拳ナ共ニ相一定シテ一モ之レニ及スルモ
ノアルノ理ナカル可シ此論タルヤ判事ウツド
ハレド氏ノウアリンク氏ヨリウラール氏
ニ對スル訴訟ニ付曾テ申明セル氏ノ所説ヲ以
テ其正確ナルヲ証明スルニ足ル可シ即同氏
ノ説ニ曰ク歐洲大陸ノ海上律ハ總テ航海ヲ為

之得可キ河川ニ至ル迄海上裁判権ヲ及ボス可
 シ
 又ミヌシツピ川ト其他航海ヲ為シ得可キ河川
 トハ其河口ト中央トヨ向ハス又ハシニシシ
 テシント、ロイスナウタインスニ、ラ、ル、
 スセラルジタウン等ノ諸港其他航海ヲ為シ得
 可キ河川ノ数多ノ諸港ト海上ノ港江トハ唯々
 潮信、水流ノ遲速、潮水ノ有無等ノ別アルノミ、外其
 間毫モ異ナルモノアルニアラス、仮令試ミニ此等潮信
 水流ノ遲速、潮水ノ有無等ノ如何ヲ以テ海上裁
 判権ノ有無ニ関スルモノトスルモ其裁判権ノ
 有無ヲ區別スルニハ此等ノ勢力ノ如何ニ依ラ
 スシテ仮令何様其勢力ノ微弱ナルモノ之レニ関

セス全ク其理論上ノ論理ヲ以テセサル可カラ
 ス果シテ然ラハ潮水ノ干満ノ人目ニ觸レサル
 カ如キ水流ノ温順ナル場所ノ苟クモ海上裁判
 権内ニ屬スル時ハハニデールソールウヘー等ノ
 曲江ノ如キ湖水ノ干満ノ激烈ナル場所ハ其権
 内ニ屬サス又十時間内ニ一マイルヲ流動スル水
 面ノ其権内ニ屬スル時ハ一時間内ニ一マイル止
 ヲ流動スル水面ハ其権内ニ屬サス又ハルテツ
 ヲ海黒海等ノ如キ殆ト塩質ノアラサル水面ノ
 其権内ニ屬スル時ハ「デツド」海「グレイト」ソラル
 ト湖水等ノ如キ全ク塩質ノアラサル水面ハ其
 権内ニ屬サハルモノト云ハサルヲ得ス但シ水
 流ハ若シ之ヲ分析スル時ハ多少其中ニ塩水ノ

分子ノ存スルモノニシテ又大隈ノ引カハ総テ
水面ノ巨大ナル場所ハ之レニ普及セサルノ理
ナカル可シ

又水面ノ常ニ同一ノ方向ニ向ツテ間断ナク流
動スルヲモ亦嘗テ之ヲ以テ海上裁判所ノ裁
判權ノ有無ニ関スルモノトセシ者ナシ然レテ
大西洋赤道直下ノ水流ノ如キハ其水勢最モ激
烈ニシテ之ヲ航行スル船舶ハ最モ速カニ亞非
利伽ヨリ西米利伽ニ達スルト雖モ其水勢ノ激
烈ナルカ爲ソ再ヒ同一ノ水路ヲ返還スルヲ得
ズ然レテ此水流ノ如キハ亞非利伽ノギ子アノ海
岸ヨリ流出シテ始終間断ナク流動スルモノニ
シテ即々之ヲ例マシハギ子アノ海岸ヨリ大西

洋ヲ横過シテソキレコノ曲江ノ南方ニ流過シ
其曲江ノ底下ヲ經テ更ラニ其北方ニ流出シ然
ル後東北ニ向ツテ北亞米利伽ノ海岸ヲ流過シ
テニウハウランドニ到リ更ラニ流回シテ
再ヒ大西洋ヲ横過シテ歐羅巴ノ海岸ヲ流過シ
然ル後南方ニ向ツテ終ニ初ノ流出セシ亞非利
伽ノ海岸ニ達スルモノナリ故ニ此水流ノ如キ
ハ間断ナク流過スルモノニシテ某所ノ如キハ
一時間立マシムルノ比例ヲ以テ流過シ然レテ若
シ風カヲ籍ラサル端船ヲ以テ航行スル時ハ十
三ヶ月ヲ以テカナリリスヨリカラクカスニ達
シ十ヶ月ヲ以テソキシコノ曲江ヲ一週シ四十
日若クハ五十日ノ時間ヲ以テフロリダヨリニ

ウハウインドランドノ海濱ニ達ス可ク又此水流
 = 依テ熱帯ニ屬スル樹木景物等ノ流過シテア
 イスラランドノルウヘー等ノ海岸ニ達シ又ハ
 ヤマイカニ於テ火災ニ罹リタル船舶ノ残物ヲ
 蘇格蘭ノ海岸ニ於テ発見セシトモ亦之レアル
 モノニシテ實ニ大洋ノ中央ノ大河ト云フモ敢
 テ過言ニアラサル可シ其他間断ナク流過スル
 水流ハジフロラールタルノ海峽マゼランノ
 海峽ニトゼラルジノ海峽等ノ水流ニシテ此
 等ノ水流ハ尚ホ一層其水勢ノ激烈ナルモニ
 シテ且平等ナルモニ係リ其他大洋ノ海峽中
 全ク潮水ノ干満ニ依ルニアラスシテ其水流ノ
 間断ナク流過シ又ハ時々流過シテ其勢力大ニ

激烈ナルモノ教多アリ

又ガルガ子ルズ河ハ其長サ三十三マイルニシ
 テ其幅羊「マイル」ヨリ一「マイル」半迄ノ場所アリ
 然シテ對岸ノ鷄声ハ能ク他ノ一方ノ岸ニ達シ
 又曾テロルド、ベールン氏ハ一時五秒間ノ時間
 ヲ以テ四「マイル」以上ヲ遊行シテ之ヲ横過セリ
 何トナレハ其水勢急流ニシテ端船ノ如キハ之
 ヲ以テ得テ直直ニ之ヲ横過シ能ハサルヲ以テ
 ナリ然シテ唯タ二個ノ湖水ニ連続スル一個ノ
 河川タルニ過キサリ然レモ往古ニ在テハ
 通商貿易ノ盛大ナル場所ニシテ教艘ノ船舶之
 レニ輻湊シ又紀元前四百年前ニ在テハ最モ激
 烈ナル海上ノ戰場ト为リテ勝利ヲ得タルトハ

載セテ往古ノ歴史中ニ在リ然シテ其水流ヲ逆航スルニハ固ヨリ順風ノ強カニ依ルカ若クハ莖氣ノ勢力ヲ藉ル、ニアラサレハ得テ進航シ能ハスト虽正尚ホ常ニ教多ノ通商貿易船ノ幅濶シテ総テ巨大ナル船舶又ハ軍艦等ト匡氏甲海ヨリ乙海ニ進航マルニハ之ヲ經過セサルモノナク又マゼラシ、海峡ノ如キ其水勢ノ急流ナルトハ総テ航海者ノ共ニ明知スル所ナリ

其他米國ノ大河ハ其幅數「フアルロシク」尺度九我間余アリテ其距離數十「リ」井「リ」尺度九我度カ一名大余十町ニ涉リ然シテ其水勢ノ如キ最モ急流ニシテ其濁水ハ洋中ノ遙カナル距離ニ至ル迄及フト虽正尚ホ一トシテ陸地ノ河川ニ屬サレ

ナシ顧フニ若シ莖氣船ノ日ニ盛大ニ至リテ吾中ノ船舶ヲ改良シテ尽ク蒸氣船タラシムルノ功績ヲ羨スルニ至ラハ此等ノ水流ト虽正尚ホ一トシテ航海ヲ為シ得可キ場所ニアラサルナキニ至ル可シ

若シ社會ノ交際ノ進歩スルニ從ヒ更ラニ財產ノ新タナル種々ヲ發明スル時ハ其財產ノ種々發明等ノ如何ト社會ノ正理公道トニ從テ之レニ法律ノ一般ノ規則ヲ適用セサル可カラサルトハ万国共ニ許シテ疑ヒヲ容レサル所ナリ然リ而シテ船舶ヲ駛行スルニ撓ヲ以テセシ如キ未タ今日ノ如ク通商貿易ノ盛大ニ至ラサル時代ニ在テハ船舶ハ今日ニ於ケルモノトハ全ク

異ナリテ又通商貿易ト航海トノ代人タル者ノ如キハ各國ト各時代トニ依テ其種差ヲ異ニシテ各々其所好ノモノヲ其水面ニ使用シ船舶ノ称名種差ノ如キハ一モ其番数ナク又軍艦ノ航海者中ニハ士官ト兵卒トヲ共ニ混同シテ包括シ又鯨獵船、風帆船ゴツドニ北海ニ供スル産海ニテ食料青臭等ノ獵船、雜品積入船、船債運送船、旅客船等ノ中ニハ航海事務ノ外尚ホ他ノ職務アリテ此等ノ職務ハ全ク航海術ニ達セサル者ヲシテ之ヲ遂行セシメ然シテ終ニ輓近ニ至リ運轉術ノ全ク新タナル蒸氣船ヲ發明シテ之ヲ使用スルニ至ルモ尚ホ其航海ノ目的ヲ遂クルハ必要タル為メ船中ニ使用セシメ人々ハ各國各時代共ニ

各々其男女、性質、地位、職務等ノ如何ニ関セズ法律上之レニ航海者タル合法ノ權利ヲ許サハルモノナシ斯ノ如キモノハ則チ他ナシ是レ全ク海上律ナルモノハ其文章上ノ皮相ノ解叙ニ拘束セラレヌシテ專ラ主タル條件ト條件トノ本質トニ関シテ自由ナル正当ノ解叙ヲ為スニ職トシテ依ルモノトス然ラハ則チ水面通商貿易上ノ代人及ヒ法律上ノ原則等ニ付テモ拘束セラレサルヤ又ハ亞米利加大陸ノ巨大ナル内海ハ歐羅巴大陸ノ内海ヲ參明シテ此等内海ノ通商貿易ノ場所ト为リタル以來司法上ノ裁決ト往古ヨリノ習慣トノ共ニ此等ノ内海ニ允許セシ特許ヲ有セサルカ又及令學藝技術航海術等

ノ日ニ改良ニ進歩シテ寒帯ノ水面ニ至ル迄通
商貿易ノ場所ト为リテ南北ノ兩極ニ至ル迄我
カ船舶ヲ進航スルニ至ルモ尚ホ此等兩極ノ中
央ニ於テハ一モ潮水ノ干満アラサルカ为ノ其
通商貿易ハ海上律ト海上律上ノ裁判權トノ保
護ヲ受ク可キ便益ヲ有セサルカ曰ク公理正道
上ヨリシテ觀ル時ハコラシブス氏亞米利伽大
陸ヲ發明セシ以未今日ニ至ル迄漸次通商貿易
ノ場所ト为リタル水面ハ總テ此等ノ便益ヲ有
セサルノ理ナカル可シ試ミニ米國ノ河川ニ於
ケル通商貿易ヲ見ヨ其河川ノ如キハ其距離數
千マイルニ涉リテ恰カモ往時ニ於ケル一ノ殖
民地ノ如ク其河岸ニハ或ハ通商貿易ノ盛大ナ

ル都府アリ或ハ製造ノ盛ナル都府アリ或ハ農
業耕作ノ盛ナル村邑アリテ今ヤ遠隔ノ地ニ産
出スル高品製造品及ヒ農業耕作上ノ産物ニ至
ル迄此等ノ水面ニ依テ運搬スルニアラヌヤ故
ニ海上律ナルモノハ旧世思ニ在テ之ヲ適用セ
シモノハ新世思ニ於ケルモノニモ亦之ヲ適用
ス可キモノニシテ又旧世思ニ在テ其保護ヲ受
クルノ便益ヲ有セシモノハ新世思ニ於ケルモ
ノモ亦其便益ヲ有スルモノト解釈セサル可カ
ラサルナリ

原註

左ニ記載スルモノハ千八百四十九年四月
奈兒ノアルバ子一毎夕新報ヨリ抄萃ヒシ

モノナリ

合衆国海岸ノ距離

合衆国海岸ノ距離ハ最近陸地官吏ノ報告スル所ニ依レハ大西洋大平海及ヒ海灣等ノ海岸ヲ合セテ總計五千百二十「マイル」ナリトシ又海濱島嶼等ノ曲彎ナル海岸ヲ合シタル總海岸ノ距離ハ海岸測量官總長ノ計算ニ依レハ三万三千六十三「マイル」トス即チ合衆国ノ北境ヨリ大西洋ノフロリダノ海峡ニ至ル迄ノ距離フロリダノ海峡ヨリメキシコ海灣ノリラグラ

千六百「マイル」

千九百「マイル」

ニドノ彎口ニ至ル迄ノ距離
大平海ノサンデー港ノ南方一「リ」井「グ」ノ国境ヨリコレゴン及ヒフ

千六百二十「マイル」

井ウカ海峡ノ海岸ヲ經テ北緯度四十九度ノ国境ニ至ル迄ノ距離
大西洋大平海海灣等ノ海岸ノ距離ノ總計

五千百二十「マイル」

又海濱島嶼等ノ曲彎ナル海岸ヲ合シタル總海岸ノ距離ハ海岸測量官

三万三千六十三「マイル」

総長ノ計算ニ依レハ

又千八百四十九年四月發兌ノ「ハ」ヲ「ロ」貿易

新報ニ北部ト西部トノ湖水ニ於ケル總テノ

船舶ト其各船舶ノ噸數トヲ掲載セルカ左ニ

記載スルモノハ其船舶ノ負數價額ナリトス

船名 負數 價額

蒸氣船 九十五 三百三十八万弗

暗車蒸氣船 四十五 九十五万弗

風帆船 七百七十四 七百八十六万八千弗

總計 九百十四 千八百八十九万八千弗

合衆国ノ通商貿易上ノ航海

左ニ記載スルモノハ合衆国ノ通商貿易上ノ

航海ノ大藏卿ノ報告中ヨリ昨年ノ噸稅ノ歲

入高ヲ按萃セシ總計表ナリ即チ

我々国ノ通商貿易ノ大ニ進歩セシ「ハ」左ニ

記載スル我々噸稅ノ總計高ノ目錄ヲ以テ之

ヲ証スルニ足り然シテ諷目錄ニ依ル時ハ此

四十年間十年毎ニ百分ニ付若干ヲ増加セシ

比例ナリ

即チ一千八百十八年ニ在テハ百二十二万五

千二百八十四噸又一千八百二十八年ニ在テ

八百七十四万三千三百九十一噸ニシテ前年ヨ

リ増加スル「ハ」百分ノ四十二又一千八百三十

八年ニ在テハ百九十九万五千六百三十九噸

ニシテ前年ヨリ増加スル「ハ」百分ノ十五又一

千八百四十八年ニ在テハ三百十五万四千五

十一噸ニシテ前年ヨリ増加スル一百分ノ五十六ナリ

是レニ由テ之ヲ觀ル時ハ合衆國ノ噸税ハ三十年間ニ千八百十八年ニ於ケルモノニ比スレハ其増加セシ一百分ノ百六十ナリ

又船舶ノ建造高ノ最モ多キ州ハ左ノ六州ニシテ其噸序ハ左ノ如キモノトス

即チメソソーニ州ハ八万九千九百七十四噸新約克州ハ六万八千四百三十四噸マサチウセマツ州ハ三万九千三百六十六噸ペンシルウニア州ハ二万九千六百三十八噸マリイラニド州ハ一万七千四百八十噸ヲハイヨ州ハ一万三千六百五十六噸ナリ

又左ニ記載スルモノハ報告昏中ヨリ抜萃セシモノナリ即チ

ペンシルウニア州ノ建造ニ係ル船舶ノ三分一ハ西部ニ在リ又新約克州ノ建造ニ係ル船舶ノ八千噸ハ湖水ニ在リ

ヲハイヨ州ハ全ク内部ノ州ニシテ船舶ノ建造高ニ付テハ亦六番ノ地位ニ居ルモノトス然レモ該州ニ於テハ尚ホ諸州及ヒチイスアロ井ーク江ヨリヲ、ランドニ至ル迄ノ諸港ニ於テ建造セシモノ、如キ巨大ナル噸數ノ船舶ヲ建造ス

又該州ニ於テハウ井ルジニア北カセライナ南カロライナ及ヒフロリダ等ノ諸州ニ比ス

レハ二倍ノ船舶ヲ建造ス

又左ニ記載スルモノハ海岸ノ諸州ニ於テ登

記セシ湖水ニ於ケル米國船ノ噸數ノ一班ナ

リ即チ

チヤニプレーシノ湖水ハ四千七百四十五噸

ヲニタリヲノ湖水ハ三万三千八百噸イリ

ノ湖水ハ十五万五千九百六十噸ミチガン

湖水ハ一万四百八十三噸總計十六万四千九

百九十七噸ナリ

又西部ノ河川ニ於ケル船舶ノ噸數ハ(ニウ、ヲ

アレアシス河ニ於ケルモノヲ除クノ外左ノ

如シ即チ

ロスツハルグ河ハ三万九百七十噸ホイーリ

ニク河ハ二千六百六十噸シニシナテ河ハ

二万五千三百五十噸ロイスウ井ル河ハ八千八

百二十二噸シント、ロイス河ハ三万六千五百

十二噸ナスシウ井ル河ハ二千四百四十五噸

ウ井ツクスバルク河ハ五百八十八噸總計百

万二千二百二十七噸ナリ

ニウ、ヲアレアシニ於テ登記セシ談河ニ於テ

ル船舶ノ噸數ハ西部ノ河川ニ於ケル船舶ノ

全部ノ噸數ト殆ト同數ニシテ其噸數ハ大凡

二百噸ナリトス

抑々今日ノ米國ノ湖水河川等ニ於ケル通商貿

易ハ各國共ニ往古ノ法律各ヲ遵守セシ時代ニ

於ケル世界中ノ海上ノ通商貿易トハ同日ヲ以

テ論ス可キモ、ニアラズ然シテ千八百四十六年ニ於テハ(京未大ニ盛大ニ至リシモ)此等ノ湖水ニ於ケル米國船ノ簿冊ニ登記シテ免許ヲ受ケタルモノ、噸數ハ百万六千三百八十六噸ニシテ其價額ハ六百万弗ニ上リ又出港免状ヲ受ケ船舶ヲ簿冊ニ登記セシモノノ負數ハ一万五千八百四十五人ニシテ又輸出入ノ金高ハ三百八十六万千八百八十弗ニ上リ航海者ノ負數ハ總計六千九百七十二名タリ又同年ノ河川ニ於ケル船舶ノ噸數ハ二十四万九千噸ニシテ其船舶中ニ使役スル人負ハ二万五千人ニ上リ其通商貿易ノ金高ハ二千万弗ナリ又湖水ノ水岸ノ距離ノ如キリ殆ト五千「マイル」ニ涉リテ其距離ノ

二千「マイル」ハ合衆國ノ所轄外ノ水岸ニ屬シ其残余ノ三千「マイル」ト及ヒ航海ヲ為シ得可キ河川ノ一万七千「マイル」ト、距離ハ同時代ニ在テハ殆ト其全部我カ合衆諸州中ノ二州以上ニ屬セリ然シテ此等ノ諸州ハ國家ノ憲法ニ依リ總テノ條件ニ付各々獨立シテ毫モ他州ノ羈絆ヲ受クル「ナク」互ニ他州エ對シテハ全ク外國タルニ異ナル「ナシ」又「ヤニ」カレ「ン」ヲ「ン」タリ「イ」リ「一」等ノ湖水中ニ於ケル合衆國ノ軍艦ハ大砲一門ノ小船ヨリ百門以上ノ海軍船ニ至ル迄ノ大小ノ軍艦ヲ總計スル時ハ其數四十艘以上ニ上リシカ試ミニ省ヨ此等ハ果シテ船舶航海船ニアラザリシ

ヤ又此等ノ水面ニ於テハペルリ氏及ヒミシ
ドノヲ氏等ハ其名ヲ後世ニ傳ヘシカ此等ノ西
氏ハ果シテ海軍ノ勇士ニアラサリシヤ又其猛
勇ナル水子ハ航海者ニアラサリシヤ又ハ戦利
物ヲ収奪シ為サ、リシヤ今ヤ此等ノ湖水河川
等ハ当時ノ大洋ニ於ケル如ク千五百噸ノ船舶
ヨリ小形ノ商船ニ至ル迄諸種ノ船舶之ヲ航行
シテ大洋ヨリ千マイルノ距離アル諸州及ヒ外
国間ノ諸港ニ到リ殊ニニウ、ラアレアンヌヨリ
シントロイスニ航行スル船舶ノ如キハ甲州ノ
管轄ヨリ乙州ノ管轄ニ至ル迄往返數百度此等
ノ湖水河川等ヲ經過シ又此等ノ船舶ハ之ヲ以
テ諸種ノ通商貿易ノ為メ甲州ヨリ乙州ニ到リ
又ハ甲国ヨリ乙国ニ到ル可キ數百万ノ旅客ヲ
運送シ之ヲ以テ此等ノ水面ヲ運送セシ人負ハ
既ニ其數殆ト一億万人以上ニ上リ又此等ノ船
舶ニハ緯度四十五度經度百度以上ヲ經テ達ス
可キ領地ノ境界中ニ散在スル田野ヨリ産出ス
ル初産ノ菓物ヲ積入レテ之ヲ運送スルモノナ
リ是ニ由テ之ヲ觀レハ此等將來ノ毎年ノ産物
及ヒ通商貿易等ノ果シテ如何ナル進歩ニ達ス
可キヤハ未タ人知ノ得テ豫定シ能ハサルモノ
ナリ

原註

左ニ記載スルモノハ千八百四十九年七月
發兌ノ「ニウヨルク、イツキスアレ」ス新報ヨ
リ抜萃セシモノナリ

モレトリ井ールニ係ル七月二日ノ報告 余
ハ過般シント、ローレンスノ航海上ニ付テ報
道セシカ尚ホ共一週間内ニ於ケルモノヲ報
道ヤンニ本港ニ入港セシ船舶ハ「ハイヲヨ
リ直テニ入港セシ充分ノ船貨ヲ以テ水面ハ
「ト」トフ駛行スル米國ノ西挽船ニ艘ニシ共
等ノ船舶ハ之レニ塩ヲ積入レテ帰行スヘク
又更ラニ左ノ船舶ノ本港ニ到着セルヲ以テ
之ヲタイバツクノ船舶報告欄内ニ記入セリ

即チ

暗車蒸氣船「ウヘスタロシ」ミルレ「ル」号ハトロ

シトヨリヤルレスポーリス氏商會ニ向ケテ此

水曜日ノ夕刻木港ニ到着セリ然シテ之レニ

積入レタル船貨ハ麩粉二千二百箱燕麥ノ粉

七十二函小麥粉七十三函小麥二千九十九

「ブツヒル」ハ外目ノ各ニシテ「アツヒ」ハ

函牛酪四十八桶羊毛十二包薰腿三桶等ナリ

然シテ「ウヘスタロシ」ミルレ「ル」号ハ我カ廣告

欄内ニ掲ケタル如ク明日正午ヲ以テ再ヒト

ロントニ向ケテ出帆スヘシ

此船舶ハ暗車蒸氣船ニシテクイベツクヨリ

モントリ井ールニ至ル迄百八十「マイル」ノ距

離アル送流ヲ航行スルニハ其時僅カニ二十

四時間ニ過キス然シテ元来ウヘラ「ド」ノ

堀河ヲ通過スル為ニ建造セルモノニ係ル

カ故ニ之ヲ以テチカゴヨリクイバツクニ航

行スル如キハ最モ自在ナリトス又取項ニ記

載セル以船ニ積入レタル船貨ノ如キハ其量

目三千五百箱ニ均シキモノニシテ即チ北部

ノ良港ヨリメキシコノ海灣ウヘスト「イン」デ

「ス」又ハスパニスシノ「ン」等ニ向ケテ出帆

スル兩桅船ニ積入ル、平均ノ船貨ニ上ル者

トス

又左ニ記載スルモノハ千八百四十九年十

月幾兒ノ「ニウ」ヨル「ク」トリヒウ「ン」新報ヨ

リ抜萃セル者ナリ

モントリ井ルニ係ル千八百四十九年十月
九日ノ報告 バルク船ハシント、ロレシス
ヲ經テカリホルニアニ向ケテ本日ケカゴフ
出帆セリ然シテ其船中ニハ唯夕西部ヨリ旅
客五十三名乗組タルノミナリト虽比シイバ
ワクヨリ之レニ船賃ヲ積入ル可シ又此船舶
ハ特別ノ免許ヲ得タリ蓋シ議事院ノ次期ノ
集會ニ於テハシント、ロレシスヲ開港シテ
諸種ノ船舶ノ之ニ入港スルヲ允許スルニ至ル可
シ

又此等湖水河川上ニ於ケル通商貿易ニ関スル
條件中ニハ一モ世界中ノ他ノ海上貿易ニ於ケ

ルモノト異ナルモノナク又ハ此等ノ湖水河川
等トハ全ク異ナリテ其水面ノ最モ巨大ニシテ
波浪激烈且塩質ノ最モ多キ大洋上ニ於ケル契
約不正行或ハ需要、權利、責任或ハ船舶ノ器具、物
件、供給或ハ通商貿易上ノ有機無機ノ代人等ト
虽凡亦此等ノ湖水河川等ニ於ケルモノト毫モ
異ナルモノナク然シテ此等ノ湖水河川上ニ於
テ起リタル争論ハ之レニ大洋上ニ於テ起リタ
ルモノト法律上ノ同一ノ規則ヲ適用スルモノ
ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハイリル湖水又ハミ
スニツロシントロレシス等ノ河川ニ於ケル
救難料、共擔分損、船唇入賃又ハ船員ノ給料、船賃、
水先料、埠頭稅等ニ関スル許詔ハ恰モ黒海「バル

テツク海マゼラシノ海峡カルク子ルレスロシクアイラン
ド、サウシ等ニ於ケルモノト毫モ異ナルトナク亦
海上航海上ノ裁判權内ニ属スル訴訟ニシテ海
上律ニ属スルモノタルハ瞭トシテ觀ルカ如シ
固ヨリ此等ノ訴訟ハ何所ニ在テモ其性質ヲ愛
スルトナク何所ニ於ケルモ海上ニ関スル訴訟
タラサルトナレ思フニ若シ往古ノ水師提督ノ
我カ国ニ存シテ其權カノ最モ盛大ナリシ時代ノ
裁判權ト職務トヲ有セルニ於テハ曾テ其本国
ヨリ我カ内海、港江、湖水、河川ト此等水面ノ我カ
船舶トニ関スル裁判權ヲ計求セシ如ク今日ニ
在テモ尚ホ海上律ニ依テ其水師提督ノ權カト特
權トヲ搜查スルハ亦唯タ此等國內ノ水面上ニ過

キサレ可シ

原註

爰ニ千八百六十八年ト九年トノ兩年間ニ於
ケル北部ノ湖水ニ於テ災害ニ罹リタルモノ
ヲ記載セル書類ニ拠ルニ千八百六十八年ニ
於テハ不慮ノ災害ニ罹リタル千六百六十四
度ニシテ死亡セシ人負三百二十一人損失セ
シ財産ノ價額三百十一万四千弗又千八百六
十九年ニ於テハ千九百十四度ニシテ死亡セ
シ人負二百九人損失セシ財産ノ價額四百十
六万弗又千八百六十八年ニ於テ損失セシ船
舶ハ百五艘ニシテ其價額百二十万七千三百
弗又千八百六十九年ニ於テ損失セシ船舶ハ

百二十六艘ニシテ其價額百四十一萬四千二百弗ナリトス
千八百六十九年十二月十五日
幾元ノ「ニウ、ヨルク、タイム」ス新報中ニ掲載セル
國會ノ報告中ヨリ拔萃
千八百四十五年ヲ以テ國會ヨリ「湖水及ヒ其他之レニ接續スル水面ニ於ケル某訴訟ヲ地方裁判所ノ權内ニ屬スルノ決議」ヲ頒布セリ然シテ左ニ記載スル、モノハ其決議ノ法文ナリトス即チ

爰ニ亞米利伽合衆國上下兩院ノ承諾ヲ以當國會ニ於テ決議スルヲ左ノ如シ
合衆國ノ地方裁判所ニ於テハ、尔今湖水及ヒ其他之レニ接續スル航海ヲ為シ得ヘキ水面

上ニ於テ各州各地方ノ甲港ト乙港トノ間ノ航海及ヒ通商貿易等ノ使用ニ供スル蒸氣船及ヒ其他海岸ノ通商貿易ノ使用ニ供スル為ノ簿冊ニ登記シテ免許ヲ受ケタル二十噸以上ノ船舶ニ於テ生シ若クハ此等ノ船舶ニ関スル契約狂害等ニ付當時合衆國ノ海上航海上ノ裁判權内ニ屬スル大洋及ヒ其他ノ湖水及ヒ蒸氣船及ヒ其他ノ船舶等ニ関スル訴訟ニ付テ有スルト同一ノ裁判權ヲ有ス可ク然シテ此等ノ契約狂害等ニ付地方裁判所ニ提起セル訴訟ニ於テハ其收復處分ノ方法及ヒ訴訟ノ手續等ハ總テ海上航海上ノ裁判權内

ニ属スル訴訟ニ付裁判所ニ於テ以用スル
モノト同一タル可シ然レモ原告人中ノ一
方ノ求ノニ依テハ原告ノ中ヨリ斯ル訴訟
ノ結案ノ事實ヲ陪審ノ訊問ニ付スルノ権利
ヲ妨ク可カラズ又ハ若シ至当ナル時ハ原告
告人ノ互ニ慣例法上ノ差引計算ヲ為シ若ク
ハ其他斯ル蒸気船或ハ其他ノ船舶ヲ通商貿
易或ハ航海等ノ使用ニ供スル本州ノ法律中
ニ定メタル差引計算ヲ為スノ権利ヲモ妨ク
可カラズ

千八百四十五年二月二十六日認可ス

其決議ハ之ヲ以テ海上裁判所ノ裁判權ヲシテ
其決議中ニ記載セル國內ノ水面上ニ至ル迄更

ラニ之ヲ擴張セシモノト思考セシヨリ其憲法
上ニ定ムルモノハ為メニ世ノ疑問ト為レリ固
ヨリ仮令憲法上ノ所謂「海上航海上ノ裁判權内
ニ属スル總テノ訴訟ナル一文中ニハ果シテ航
海ヲ為シ得ヘキ河川湖水上ニ於テ起リタル訴
訟ニ至ル迄其内ニ包含セサルモノトスルモ國
會ニ於テハ敢テ其決議ヲ以テ此等ノ訴訟ヲ海
上若クハ航海上ノ訴訟ニ属スルヲ得ヘキモノ
ニアラサルハ余ノ信シテ毫モ疑ヒヲ容レサル
所ナリ何トナレハ國會ニ於テハ憲法上ノ規則
ヲ廢棄スルノ權アルモ之ヲ擴張シ能ハサル
ノ外他ニ別段定メタル規則アラサルヲ以テナ
リ然レモ若シ果シテ憲法上ノ條款ニ依リ大政

府ニ於テ斯レ訴訟ヲ規定スルノ権カニ於テハ其司法上ノ議決ハ合衆國ノ裁判所中國會ニ於テ議決スヘキ裁判所ニ商議シテ之ヲ規定シ又此等ノ訴訟ニ関スル手續ハ國會ニ於テ議決ス可キ方法ヲ以テ之ヲ規定シ得ルハ亦毫モ疑ヲ容ル可カラサルナリ

元來國會ニ於テハ其司法權ノ外尚ホ「外國トノ通商及ヒ内國諸州並ニ「インデア」人種トノ貿易ヲ規定シ又ハ「大審院以下ノ諸裁判所ヲ設ケ洋中ニ於テ犯シタル海賊重罪及ヒ万国公法ニ對スル犯罪等ヲ定限シ且之ヲ懲罰」シ又ハ右諸權其他憲法上合衆國ノ大政府ニ委付ヒル諸權ヲ施行スル為ノ至要至當ナル諸種ノ法律ヲ制定

スル等ノ權アリ是レニ由テ之ヲ觀ル時ハ國會ニ於テ航海ヲ為シ得可キ巨大ナル河川湖水等ニ於ケル通商貿易等ニ関スル訴訟ノ裁判權及其審問ノ方法等ニ付苟クモ有益ナリト思考スル法律ハ之ヲ頒布スルノ權アル「ハ充分之ヲ証スルニ足ル可シ加之國會ニ於テ外國及ヒ内國諸州トノ通商貿易ヲ規定スルノ權力中ニハ大洋及ヒ合衆國內ノ港江湖水其他航海ヲ為シ得ヘキ水面等ヲモ包含スルハ論ヲ待タサルナリ

彼ノ千八百四十五年ノ決議ノ法文ニ依テ考フルニ蓋シ國會ニ於テ之ヲ頒布セシ時ニ當テハ專ラ海上裁判所ノ便宜ナル訴訟手續ニシテ其

決議中ニ定メタル訴訟ニ至ル迄之ヲ擴張スル
トノ至要タルトヲ感動セシト雖モ斯ル訴訟ヲ
以テ海上裁判所ノ裁判権内ニ属スルノ訴訟ト
為スノ権カノ有無ニ至テハ敢テ疑ヒテ容レサ
レナキニアラサルモノ、如シ然シテ以決議ニ
付テハ諸家ノ論說アリト雖モ就中判事長マ
シヤル氏ニ次テ憲法ノ最モ碩學ノ注解者タル
ウヘガスタル氏ノ論說ハ正当ナルモノ、如シ
即チ氏ノ說ニ曰ク「以貴重ナル法律ニ對シテ世
人ノ喋々異論ヲ唱フルハ他ナシ唯タ國會ニ於
テ之レヲ頒布スルニ當テハトヲマスイセソア
ルソ氏ノ訴訟ニ於ケル當裁判所ノ判決アルヲ
以テ大ニ之レニ恐懼セシトノ一事ヲ以テ其理

由トスルニ過キサルモノ、如シ余ヲ以テ觀ル
ニ以法律ハ唯タ之ヲ以テ不正ノ地位ニ權カヲ
抹着セシノニテ之ヲ頒布スルノ權カニ至テ
ハ恰カモ公理正道上ニ依ルモ又ハ世ノ輿論ニ
於テモ共ニ英吉利ノ判例外ニ海上航海上ノ裁
判權ヲ擴張スルトノ至要タルニ依リ終ニ潮水
ト清水トヲ問ハス終テ航海ヲ為シ得ヘキ水面
ニ至ル迄之ヲ擴張セシカ如ク全ク憲法上ニ規
定セル海上航海上ノ允許中ニ包含スルモノナ
リト
元來此決議中ニ記載セシ訴訟ノ如キハ固ヨリ
國會ニ於テ其通商貿易ヲ規定スルノ權カト司
法上ノ權柄トヲ以テ其裁判權ヲ合衆國裁判所

に委附スルヲ得ヘシ然レ其處分ノ方法訴訟
ノ手續等ヲ規定スルノ権力ニ至テハ全ク國家
ノ立法上ノ管理中ニ屬スル者ナリ又ハ國會ニ
於テハ總テ合衆國裁判所ニ提起スル訴訟ニ於
テハ其權利ノ收復處分ノ方法訴訟ノ手續等ハ
苟モ憲法上ニ定メタル訴訟ニ限り原告被告人中
ノ求メニ依テハ之ヲ陪審ノ訊問ニ附ス可キ
ノ一事ヲ除クノ外總テ海上航海ノ裁判權内
ニ屬スル訴訟ニ於テ收用スル者ト同一ナルヘ
キ一ヲ制定スルヲ得ヘク尙ホ且殊ニ陪審訊問
ノ如キハ兼章中ニ於テモ既ニ論述セル如ク若
シ至當ナルルハ總テ海上裁判所ニ屬スル訴訟
ヲ其訊問ニ附ス可キ一ヲ制定スルモ亦敢テ妨

ケナカレ可シ
是レニ由テ之ヲ觀ル時ハ國會ニ於テ其裁判權
ヲ有スル某種ノ訴訟ニ付其裁判權ヲ地方裁判
所ニ委附シ之レヲシテ海上航海ノ裁判權内
ニ屬スル訴訟ニ於ケルモノト同一ノ處分ノ方
法、訴訟ノ手續ニ從テ之ヲ施行シ且其訴訟ニ法
律上ノ同一ノ規則ヲ適用セシムヘキ一ヲ決定
スルニ當テハ敢テ何等ノ訴訟ノ其意解ニ依ル
時ハ海上裁判所ニ屬スル訴訟タルト否トヲ講
究スルヲ要セス他ナシ何等ノ訴訟ハ何レノ場
所ニ於テ起ルモノニ係ルヲ問ハス法律司法上
ノ實際ノ目的ヨリシテ觀ル時ハ一トシテ海上
裁判所ニ屬スル訴訟ニアラサルナキヲ以テナ

り
取既ニ掲載セル如ク以決議中ニ規定セル許訟
ノ主タル條件ハ蒸氣船又ハ其他ノ船舶ニ於テ
生シ若クハ艸等ニ関スル契約狂害等ノ総テノ
條件ナリトシ又其諸船ハ海岸ノ通商貿易ノ使
用ニ供スル為メ簿冊ニ登記シテ免許ヲ受ケタ
ル蒸氣船及ヒ其他ノ船舶ナリトシ又其船舶ノ
量額ハ二十噸以上ノ船舶ナリトシ又其船舶ヲ
使用ニ供スル營業ハ各州各地方ノ甲港トハ港
トノ間ノ通商貿易及ヒ航海等ニ限レル者トス
然シテ慣例法上ノ差引計算又ハ諸州ノ法律中
ニ定メタル差引計算等ハ之レヲ除却セサルナ
リ

然レモ航海ヲ為シ得ヘキ巨大ナル河川トモ
其湖水ニ接續セサルモノハ右決議中ニ包含セ
ス故ニナイアカラ川ノ如キ水面ハ其中ニ包含
スルトモ此モスニツピ川ハ其中ニ包含セサル
可シ是レ果シテ如何ナル理由ノ存スル在リテ
斯レ區別アルヤ之ヲ了知スルハ實ニ難事ト云
フハシ元來河川上ノ通商貿易トモ此モ湖水上ニ
於ケル者ノ如ク亦全ク貴重ナル者ニアラサル
ナシ故ニ若シ果シテ斯レ河川ニ於ケル通商貿
易ヲシテ同一ノ便益ヲ得セシムルニハ更ニ國
会ノ決議ヲ以テ規定スルノ必要タルニ於テ
ハ速カニ決等ノ航海ヲ為シ得ヘキ河川ニ於テ
モ亦同一ノ決議ノ便益ヲ受ルニ至ラシトテ偏

ヘニ希望スルノミ
曾テ大審院ニ於テホイトン氏判決録第十卷ノ
四百二十八葉中ニ記載セルトラマズセフアル
ソシ氏ノ訴訟ニ於テラハイヲミスシツロニス
ミウリ等ノ河川ニ於テ受クヘキ船負ノ給料ニ
関スル訴訟ハ若シ其全航海ノ其等ノ水面上ニ
止ル時ハ海上裁判所ニ於テ其裁判權ヲ有セサ
ルモノト判定セシヘリアリ其時ニ當テハ敢テ之
ヲ不當ナリトシテ弁駁セシ者アラサル者ノ如
ク然シテ判事ストラリト氏ノ其判決ヲ下スニ
當テハ專ラ英國ニ於ケル兩裁判所間ノ往古ノ
爭論ニ其意ヲ注キ然シテ英國ノ海上裁判所ニ
於テハ潮水上ニ於ケルモノハ外曾テ其他ノ場

所ニ於ケル裁判權ヲ討求セシトアラサリシヨ
リ氏ハ之ヲ以テ漫リニ犯ス可カラサル確乎不
拔ノ區域ナリト斷言ス之ヲ觀テ其等ノ場所ハ
海上裁判所ノ權内ニ屬サ、ルモノト推測セシ
モノ、如シ然レモ余ノ所見ノ及フ所ヲ以テ觀
ルニ當時英國ノ海上裁判所ニ於テモ又ハ法律
裁判所ニ在テモ共ニ唯タ總テ航海ヲ為シ得ヘ
キ河川ノ海上ヨリ第一ノ橋下ノ裁判權ヲ互ニ
掌握セントセシトノ外曾テ其等ノ如キ場所ニ
其意ヲ注カサリシモノ、如シ然シテ氏ハ其英
國ノ海上裁判所ニ於テ漫リニ犯カス可カラサ
ルモノト信セシモノヲ以テ確乎不拔ノ區域ト
為シ其判決ヲ為シテ曰ク「英國ノ法律裁判所ト

海上裁判所トノ争論ニ於テハ海上裁判所ニ於テ
唯タ航海ノ契約ニ関スルモノハ外曾テ其他
ノ裁判權ヲ固執セシトセシトナク又船負ノ雇
入ニ関スル契約ノ如キハ海上裁判所ニ於テ曾
テ其裁判權ヲ討求セシトアラサルノミナラス
斯ル契約ニ関スル裁判權ハ苟クモ其雇入レニ
係ル使役ノ海上若クハ其他潮水ノ干満スル水
面内ニ於テ遂行シ若クハ遂行ス可キモノニ係
ル詭詔ニ関スルモノニアラサルヨリハ海上裁
判所ニ於テ至當ニ之ヲ行フヲ得サルモノトセ
リ是レ全ク漫リニ犯カス可カラサル確乎不抜
ノ區分ナリト斯ノ如キモノハ則チ氏ノ判決ニ
シテ氏ノ斯レ判決ヲ為シタル所以ノモノハ他

ナレ全ク偏ニ氏ノ英國ノ判例ナリト信セシモ
ノトミヲ固執シテ氏ノ其判決セルモノト如キ
ハ曾テ英國ニ於テ其問題ノ起リシトテ徵スヘ
キ判例ヲ援引セサルニ依ル可シ然リ而シテ英
國ノ海上裁判所ニ於テ終チ航海ヲ為シ得ヘキ
河川ノ海上ヨリ第一ノ橋下即チ之ヲ詳言スレ
ハ航海ノ妨害ト為ル可キ場所ニ至ル迄ノ裁判
權ヲ始終討求セシトハ固ヨリ毫モ疑ヒヨ容レ
スト虽氏曾テ其等ノ橋上ニ於テ詭詔ノ起リ又
ハ其等ノ橋下ニ其詭詔ノ起ルヘキ船舶或ハ通
商貿易ノアリシトハ未ダ曾テ余ノ聴カサル所
ナリ
又大審院ニ於テハ前項ノ判決ヲ為スニ先ツテ

曾テ契約ニ関スル訴訟ノ裁判權ハ其契約ヲ結
ヒタル場所ニ屬スルニアラスシテ全ク其所約
ノ條件ノ種類ニ屬スルノ判決ヲ為シ尔後又
場所ニ付テハ總テ僅カニ十噸以上ノ船舶ヲ以
テ海上ヨリ進航スルヲ得ヘキ水面ハ千七百九
十年ノ制法第九章ニ依テ海上裁判所ノ權内ニ
屬スルヲ判決セシヨリ尔来之ヲ以テ判例ト
セシカ談制法及ヒ船負律等ノ法文ヲ論セシ碩
学ナル判事ノ所説ニ依テ觀レハ此等ノ法文ハ
深思熟考シテ能ク之ヲ論究セシモノトス然シ
テ其甲種ノ制法中ノ條款ノ如キハ最モ明瞭ニ
シテ後來ノ疑團ヲ免カル、為ソ餘中「總テ海上
航海ノ裁判權内ニ屬スル民事上ノ訴訟並ニ

合衆國ノ輸入航海及ヒ通商貿易等ニ関スル法
律中ニ定メタル戦利中十噸以上ノ船舶ヲ以テ
海上ヨリ進航スルヲ得可キ合衆國內ノ水面及
ヒ大洋上ニ於テ為シタル戦利云々ノ一項ヲ記
入セリ然シテ總テ斯ル訴訟ノ湖水河川並ニ大
洋上ニ於ケルモノヲ判定シテ古来拳ナ同一轍
ニ海上裁判所ノ權内ニ屬シテ陪審ノ訊問ヲ用
ヒス裁判所ニ於テ審問スルヲ得ヘキ民事ノ訴
訟トセシハ全ク以法文ノ効力ニ依ル者ナリ又
千七百九十年ノ船負律ノ如キハ商人ノ使役ニ
從事スル各船負ヲ包含シテ其標題トシ然シテ
其法文ハ「各船負若シハ航海者又ハ各船舶若ク
ハ航海船トアリテ毫モ潮水ノ如何ニ関セス是

ニ依テ之ヲ親レハ其等ニ関スル訴訟ノ海上裁判
所ノ推内ニ属スルト否トハ唯タ其使役ノ航海
上ニ関スルト否トノ如何ニ過キサルモノ、如
シ然シテ其航海ニ関スルト否トハ其使役ノ
船中ニ係ルト否トノ如何ニ依テ之ヲ判別ス可
キ者トス
然レモ尔後大審院ニ於テハ此トヲマシセフア
ルツニ氏ノ訴訟ニ於ケル判例アルニ関セス之
ト全ク異ナル判決ヲ為セリ然レモ其判決タル
マ若シ唯タ英國ノ判例ノミヲ採用セシ狭隘ナ
レ規則ニ依ル時ハ未タ以テ斯ル判決ヲ為シ能
ハサル可シ何トナレハ其規則ニ依ル時ハコス
シツバ川及ヒニウヲアレアシス港等ノ如キ常

ニ巨大ノ船舶ノ輻湊シテ世界中ノ他ノ諸港ヨ
リモ一層通商貿易ノ盛大ナル港ヲ以テ海上裁
判所ノ裁判推内ニ属サ、ルヲ以テナリ固ヨリ
此等ノ諸港ハ其水流ノ全ク清水ニシテ毫モ潮
水ノ于満アラスト虽モ若シ乏ヲ以テ海上航海
上ノ裁判推内ニ属サ、ル者トスルニ於テハ苟
モ法律家タル者ハ蓋シ其不当タルノ甚シキニ
驚カサル者ナカル可シ故ニペワテ―氏ノ判決
録第七卷ノ三百二十四葉中ニ掲ケタルベ―口
ヲクス氏ヨリホウア―ド氏ニ對スル訴訟ト及
ヒホ―チ氏ノ判決録第四卷ノ四百四十一葉中
ニ掲ケタルウ―ア―リ―グ氏ヨリクラムク氏ニ對
スル訴訟トニ於テハ大審院ニ於テ其等ノ諸港

ヲ以テ海上航海上ノ裁判權内ニ属スルモノト
 判定セルヨリ今ヤ英等ノ諸港ハ仮令一モ潮水
 ノ于滿ナク其水流ハ恰カモ地中海ノ如ク常ニ
 港外ニ流出シテ其水流ハ全ク清水ナリト虽
 總テ海上航海上ノ裁判權内ニ属スル者トス然
 レモ大審院ニ於テ以判決ヲ為スニ當テハ亦能
 ク英國ニ於ケル規則ヲ遵守シ然レテ河川ハ多
 少湖水ノ于滿ノ之レニ影響スルモノニシテ其
 水面上時々波浪ノ如キモノ起ルヲアル由ハ
 全ク潮水ノ于滿ノ之レニ影響スルニ依ルヲ
 以テ其判決ノ理由トセリ此判決ヲ為シタル碩
 学ナル判事ノ説ニ曰ク「海上裁判所ノ裁判權ノ
 場所ニ属スルモノハ其有無ハ全ク潮水ノ于滿ニ

依ルモノナリト然レモ契約ニ関スル許訟ノ海
 上裁判所ノ權内ニ属スルト否トハ敢テ其契約
 ヲ結ヒタル場所ノ如何ニ依ルニアラスシテ全
 ク其許訟ノ主タル條件ノ如何ニ依ル者トス是
 往古ヨリ其判例數多アリテ能ク決定スル所ナ
 リ
 爰ニ前數章中ニ論述セルモノ、大要ヲ擧ケテ
 之ヲ論スルハ海上裁判所ノ裁判權ノ有無ハ
 敢テ太陰ノ引カノ有無即チ潮水ノ于滿ノ有無ニ依
 ルモノニアラス又ハ水面ノ定時ヲ以テ高低ス
 ルト否トノ如何ニ依ルモノニモアラス又ハ水
 流中塩ノ分子アルト否トノ如何ニ依ルモノニ
 モアラス又ハ水面ノ流動スルト否トノ如何ニ

依ルモノニモアス又ハ湖水海上ト他ノ巨大ナ
ル水面若クハ大洋トヲ接続スル川口海峡或ハ
水流等ノ廣狹若クハ其種類ノ如何ニ依ルモノ
ニモアラス又ハ水面ノ國內ノ入船所若クハ陸
地ヲ以テ圍繞スル海上或ハ湖水ニ係ルト否ト
ノ如何ニ依ルモノニモアラス又ハ水面ノ河川
タルト否トノ如何ニ依ルモノニモアラス又契
約ニ関スル訴訟ノ如キ其裁判權ノ有無ハ全ク
其訴訟ノ主タル條件ノ種類ニ依ルモノニシテ
敢テ其契約ヲ結ビタル場所若クハ地方ノ如何
ニ依ルモノニモアラス又ハ其契約ヲ結フニ港
江若クハ地方内ニ於テセシト否トノ如何ニ依
ルモノニモアラス又ハ慣例法上ニ於テ曾テ同

一ノ訴訟ニ付裁判ヲ為シタルトアルト否トノ
如何ニ依ルモノニモアラス又ハ地方官吏ノ其
地方ノ法律ヲ以テ裁判ヲ為シ得ルモノニ係ル
ト否トノ如何ニ依ルモノニモアラス又ハ英國
ニ於ケル制法ノ如何ニ依ルモノニモアラス
ナリ
但シ契約ニ関スル訴訟ノ裁判權ハ敢テ場所ニ
屬スルモノニアラス又ハ人ニ屬スルモノニモ
アラスシテ全ク其訴訟ノ主タル條件ト種類ト
ニ屬スルモノナリ故ニ若シ其契約ノ船舶船積
又ハ通商貿易航海等ニ関スルモノニ係ルニ於
テハ其裁判權ハ海上裁判所ニ屬スルモノニシ
テ其他ノ裁判所ニ於テハ一モ之ヲ有セサルナ

リバルデスサス、ロイクス氏曰ク、総テ通商貿易
航海及ヒ航海者等ニ関スル條件ハ海上律ニ属
スル者ナリト(同氏海上律第三卷ル四百五十一
葉ヲ參觀スヘシ)

第十七章 某種ノ訴訟ニ関スル判例ノ
事

最數章中ニ論述セル歴史、法律、裁判、憲法上ニ関
スルモノヲ以テ觀ル時ハ海上律ナルモノハ其
権限ノ最モ廣大ナルヲ徴スルニ足ルノミナ
ラス尚ホ且末國革命ノ時ニ當テ英國ノ法律裁
判所ニ於テ制限認可セシ該國ノ海上々等裁判
所ノ裁判権ニ関スル法律ハ尔来我カ海上裁判
所ノ裁判権ニ関スルノ法律ニアラサルヲト及

ヒ英國ノ海上裁判所ノ裁判権ヲ制限セル該國
ノ「キングス、マントウ、廳及ヒ「コレモレ、パリース、廳
等ノ判決ハ我カ末國ニ在テハ一モ其判例タル
ノ効カアラサルヲモ徴スルニ足ル可シ
斯ノ如キモノハ則チ我カ國ニ於ケル判例ヨリ
シテ終ニ一般ノ規則ト為リタルモノナリ固ヨ
リ合衆國ノ各裁判所ニ於テハ各々共ニ始終其
裁決ヲ一ニシテ益々以一般ノ規則ヲ確定セシ
ト虽凡尚ホ英國ノ狹隘ナル判例ニ從テ判決セ
シ訴訟モ亦少カラス若シ否ラズンハ本條ノ如
キハ固ヨリ全ク無用ノ廢物ニ属ス可シ然リ而
シテ以一般ノ規則ハ斯ル判例ノ相異ナルモノ
アルヨリ新訴ノ起ル毎ニ之ヲ理由トシ論駁セ

シ者往々之レアリ是レ他ナレ思フニ若シ此規
則ヲ全ク廢棄シテ米國海上裁判所ノ裁判權ヲ
シテ當時ノ英國ニ於ケル權限ニ至ル迄之ヲ制
限セシトセシニアラスンハ其權限ヲ減殺セシ
トセシニ依ルテ瞭ナリ然レニ裁判所ニ於テハ
斯レ事情ヲ察セスシテ之ヲ觀テ偏ヘニ數年ノ
間諸州ニ於ケル判例ヲ引用擴張シテ既ニ數年
ノ論理講究ヲ以テ充分確定セシ憲法上ノ數年
ノ權利ヲ大政府ヨリ收奪セシトセシ論說ノ致
ス可ト信セシ者ノ如シ
然レニ其新タニ起リシ詬詔ハ一層貴重ナルモ
ノニシテ又詔廷ニ於テ其裁判權ノ有無ヲ争ヒ
シ并論モ亦一層精巧ニ涉リ裁判所ニ在テモ亦

一層注意ヲ加ヘテ之ヲ講究シ然レテ海上裁判
所ノ裁判權ヲ一層確定シテ其廣大ナル權限ニ
限リ之ヲ以テ大政府ノ權内ニ屬スルモノトセ
シト等ハ毫モ疑ヲ容ル、所ニアラス又ハ英國
ノ狹隘ナル規則ヲ主張セシ論說モ亦起リテ此
等ノ論說中ニハ或ハ其精神ノ多ク彼ノ英國ニ
於ケルロルト、コルク氏ノ時代中ノウヘストミ
ニスタル裁判所ノ論說ニ類似スル者アリ又或ハ
此問題ヲ以テ國家ノ公益ニ関スル者トスルニ
アラズシテ唯ク一地方ノ便益ニ関スル者トシ
テ論セシ者モ亦之レアリ是レ亦敢テ疑ヲ容レ
ヤル所ナリ

此問題ニ付テハ、氏判決録第三卷ノ六葉中

二記載セル千七百九十四年ノベツトセー氏ノ
訴訟及ヒ同氏ノ判決録第三卷ノ二百九十七葉
中ニ記載セル千七百九十六年ノラウヘンチア
ニス氏ノ訴訟以來尔後今日ニ至ル迄大審院ニ
於ケル判決ハ始終同一轍ニシテ同一ノ規則ヲ
遵守セリ然シテ此等ノ時代中其大審院ノ判事
タリシ者ノ多クハ我カ司法上ノ制規ヲ規定セ
シ國會ノ議負ニシテ我カ憲法ヲ創定セシ國會
ノ會議ニ列セシヲ以テ觀レハ固ヨリ此等ノ人
人ハ能ク其法文ノ至当ナル効カヲ判定スルノ
任ニ堪ヘシ人々ニアラサルナカレハシ然シテ
此等大審院ノ判事タリシ者ノ中ニハ大審院ノ
所說ト其說ヲ異ニセシモノナキニアラスト虽

凡余輩ハ末タ此等ノ人々ニ許シテ大審院ノ先
榮ヲ増加スルニ足ルヘキ學カ方能ヲ有セシモ
ノト斷言スルヲ得ス之レニ及シテ敢テ此等ノ
人々ヲ輕慢蔑如スルニアラスト虽凡常ニ大審
院ノ所說ト其說ヲ同フセシ人々ニ至テハ一人
トシテ其雷名ヲ國中ニ裏カシテ永ク法律家ト
ルノ榮名ヲ後世ニ殘セシ人々ニアラサルナシ
然シテ此等千七百八十年代ニ在テ曾テ異說ヲ
唱ヘシ者アリト虽凡他ノ一方ニハ最モ賢明ナ
ル判事ノアル在リテ其論說ノ勢力最モ強カリ
シヨリ矣論ノ後終ニ之レニ歸セシトヲ以テ觀
ル時ハ之ヲ以テ尔未大審院ノ判決ノ同一轍ト
リシトヲ徵スルニ足ルノミナラス實ニ尔未其

適用セシ規則ノ正当ナルヲ証明スルニ足ル
可キ正確ナル証拠ト為ス可キモノトス
左ニ記載スルモノハ大審院ニ於テ始終同一轍
ノ判決ヲ為シタル所ノモノナリ即チ

一 憲法上國家ノ司法權ヲ海上航海ノ裁
判權内ニ屬スル總テノ訴訟ニ至ル迄擴
張シテ之ヲ其權内ニ委附セシモノハ敢
テ憲法創定ノ時ニ當テ英國ノ海上航海
上ノ裁判權内ニ屬セシ訴訟タリシモノ
ニ限ルモノニアラス又ハ必等ノ訴訟ニ
限レルモノト解釈スヘキモノニモアラ
ス然シテ若シ能ク憲法上ノ規則ノ至
當ナル効力ヲ深思熟考スル時ハ敢テ他

ニ講究スルヲ要セス唯タ此規則ノミニ
テ米國ノ海上裁判所ノ裁判權ニ對シテ
抗論スル弁論ノ不當タルヲ徴スルニ
足ル者ナリ

二 米國ノ海上裁判所ニ於テハ總テ訴訟ノ
海上ニ関スル條件又ハ契約枉害等ニ関ス
ル諸般ノ海上ノ裁判權ヲ有スヘク然シ
テ枉害ニ関スル條件ニ付テハ其裁判權
ハ其枉害ニ依テ海上ニ於テ加ハタル總
テノ損害侵害等ニ関スル裁判權ト共ニ
之ヲ犯カシタル場所ニ屬シ又契約ニ関
スル條件ニ付テハ其裁判權ハ其海上ノ
通商貿易及ヒ航海等ニ関スル總テノ延

分手続ト共ニ其契約ノ主タル條件ト性質
トニ屬スル者ナリ

三 陪審ノ訊問ヲ受クルノ權利ハ海上ノ裁
判權内ニ屬スル訴訟ニ至ル迄普及スル
者ニアラス

四 海上裁判所ノ裁判權ノ有無ハ法律裁判
所ニ於テ同一ノ訴訟ニ関スル裁判權ヲ
有スルト否トニ関スルモノニアラス又
ハ其訴訟ノ條件ノ港江ニ於テ起リタル
モノニ係ルト諸州ノ地方内ニ於テ起リタ
ルモノニ係ルトノ如何ニ関スル者ニモ
アラス

五 米國ノ海上裁判所ニ於テハ總テ海上ノ
差押ニ関スル訴訟ノ裁判權モ亦之ヲ有
スルモノナリ

是レニ由テ之レヲ觀ル時ハ蓋シ海上裁判所リ
裁判權ニ関スル問題ハ全ク平等ノ判例タル正
理ト規則トヲ以テ之ヲ包括スルヲ了解セサ
ル者ナカル可シ然レテ平等ノ判例ハ若シ其至
当ナル見解ヲ深思熟考シテ能ク其至要ナル區
域ヲ以テ之ヲ適用スル時ハ總テ海上航海上ノ
訴訟ノ裁判權ニ関スル問題ハ一トシテ平等ノ
判例ヲ以テ判定シ能ハサル者ナカレ可シ何ト
ナレハ既ニ平等ノ判例アル上ハ亦從テテウホ
ニキウ氏ノ明カニ申明セルカ如キ他ノ一般ノ
規則ト為ス可キモノト生スルハ到底免レ可カ

ラサルモノナリ以テナリ即チ氏ノ説ニ曰ク
總テ海上航海上ノ裁判權内ニ屬スル許訟ニ就
テハ其全權ヲ合衆國ノ裁判所ヘ委附スルモ
ニシテ苟クモ海上航海上ノ法律ニ屬スル法
律中此等
ノ許訟トシテ規定スル許訟ハ總テ其權内ニ屬
スルモノナリト實ニ氏ノ説ノ如ク若シ英國ニ
於ケル法律ノ我カ國ニ効カタク又ハ該國ノ判
例モ亦末々我カ國ノ判例ト爲スニ足ルヘキ効
力アラサルニ於テハ海上航海上ノ裁判權内ニ
屬クスル許訟ト否トハ唯ク一般ノ海上律ニ從
フコト判定スルヲ得ヘキハ固ヨリ論ヲ待タザル
ナリ

最章ニ於テ總テ契約ノ海上ニ關スルモノニ係

ルト否トハ其契約ノ全ク海上ノ通商貿易ノ使
用ニ供スル船舶航海上等ニ關スルモノニ係ル
ト否トノ如何ニ依テ判定スヘキコトヲ既ニ論セ
ルカ此區別タルマ簡單ニシテ明瞭ナルノミナ
ラス尚ホ且其適用ノ最モ容易ナルモノナリ
〔原註〕曾テ英國ニ於テ該事院ノ決議ヲ以テ海上裁
判所ノ裁判權ヲ擴張シテ總テ船舶ニ依テ加ヘ
タル損害ニ關スル討求ノ裁判權ヲ其權内ニ屬
セリ然シテ此條款ニ依リドクトルラスシク
トシ氏ハ北和蘭陀ノ堀河ニ於テ衝突ヲ爲シタ
ルコトノ諍訟ニ關スル許訟モ亦其權内ニ屬スル
モノトシテ之ヲ受理セシコトアリ然シテ今ヤ余
ハ爰ニ尚ホ海上ニ關スル許訟ノ致すノ種類ト

及ヒ其判決是ニ其他ノ判例トテ詳細ニ論シテ
以テ余カ以テ本章ノ著述ノ局ヲ結ハントス蓋シ
此等ノ所論タルヤ以テ等ノ訴訟ニ從事シテ徒ラ
ニ言詞法式等ヲ講究スルニアラスレテ專ラ其
訴訟ニ関スル判例ト其訴訟ノ本質ノ分解トヲ
講究スル者ニ在テハ今爰ニ論ス可キ訴訟ノ種
類及ヒ其判決等ニ依テ見解ヲ下シ然シテ他ノ
訴訟ヲシテ容易ク其至当ナル種類ヲ判別シ得
ルニ至ルノ益ナキニアラサル可シ
海上律ノ殊ニ船舶ト諸種ノ關係アルトハハ
テスサス氏ノ商法中ニ左ノ如ク簡單ニシテ明
瞭ナル方法ヲ以テ能ク之ヲ區別セリ即チ
デスサスドヒイト氏商法第一卷ノ八十一葉ヲ

參觀ス可シ

船舶

爰ニ海上ノ通商貿易上ニ於ケル處分ハ簡單
ニシテ明瞭ナル方法ヲ以テ之ヲ區分スルヲ
得可シ即チ船舶ハ苟クモ人ノ所有ニ屬スル
ニアラサルヨリハ唯タ之ヲ以テ航海ヲ為ス
方法ノミ得テ成立ス可キ者ニアラス故ニ之
ニ関スル條件及ヒ其所有權ヲ得ル方法ニ関
スル條件等ノアル在リテ初テ海上律ト相関
係アル者ナリ

船舶ノ社員即チ官吏船員

船舶ノ管理ハ通常船將ト稱スル案内者ニ委
任スルモノナリ然シテ船將ノ權利ト責任ト

ハ全ク其官名ト性質トヨリシテ之ヲ受クル者ナリ

又船將ト船將ノ下ニ在テ船舶ノ使役ニ従事スル者トハ互ニ契約ヲ為スモノナリ然シテ其使役ノ種類中異同アル所以ノモノハ全ク其契約ノ如何ニ依ルモノナリ

船主運送者及ヒ船雇入人

總テ船舶ヲ所有スル者ハ通常之ヲ自身ノ使
用ニ供スルモノニアラス船主タル者ハ其船
船ヲ以テ物品ヲ運送ス可キ權利ヲ他人ニ推
讓シ又ハ其運送ヲ為スヘキヲ自身約スル
モノナリ是レ斯ル契約及ヒ其運送ニ従事ス
ル者ノ責任ニ関スル一般ノ規則ノ適用並ニ

時宜ニ依テハ船雇入人間ノ必要ナル關係等
ニ関スル規則ノ設ケアル下ノ必要タルニ至
リシ所以ナリ

船舶船貨等ノ不慮ノ災害

總テ航海中不慮ノ災害ニ罹リタル時ハ為ノ
ニ船舶船貨ヲ損失シ或ハ人ノ生命ヲ失フコ
アル可シ然シテ之ヲ称シテ共擔分損ト云フ
是レ難船ノ為ノ救助ノ方法ノ設ケアル下ノ
必要タル所以ナリ

船舶船貨等ノ保險

元來海上ノ通商貿易ハ諸種ノ損失損害ヲ受
クルモノニ係ル故ニ企計者ノアル在リテ船
船船貨等ノ持主ノ便益ヲ計リテ之レト其受

ケタハ損失ヲ償フヘキヲ約スルニ至ル是
レ海上保険ノ契約ノ因テ起リシ所以ナリ
船舶船賃等ヲ抵当トシテ借入ル、貸金
遠行ノ航海ハ時トシテハ其資本ノ圖ラサル
欠乏ヲ生シテ通常抵当ナキ貸借上ニ依テハ
容易ク之ヲ得能ハス苟クモ船舶船賃等ヲ抵
当トスニアラサレハ借入レ能ハサルニ当
リ其資本ノ益々欠乏スル為メ若シ其航海中
危難ニ罹リタル時ハ貸主ノ損失ニ帰スヘク
若シ又無難ニ到着スル時ハ之レニ其貸金ヲ
以テ陸地上ノ高買中ニ得可キ利益ヨリハ一
層巨額ノ利金ヲ受償スヘキ約ヲ以テ此等ノ
船舶船賃等ヲ抵当トシテ金額ヲ借入レシ
往々之レアリ是レ私吞入賃ノ契約ノ因テ起
リシ起源ナリ

澳獵船及ヒ澳獵者

海上ノ營業ハ特リ航海及ヒ旅客商貨等ノ運
送ノミニニ限レルモノニアラス澳獵モ亦國家
ノ公益ト通商貿易上トノ共ニ獎勵スル海上
營業中ノ一部ニシテ此等ハ別段ノ規則ニ屬
スル者ナリ

總テ海上裁判所ニ於テ其至当ナル裁判權ヲ行
フニ當テハ衡平法律ニ法上ノ裁判權ヲ有スル
モノナリ故ニ若シ訴訟ノ條件ノ苟クモ海上ニ
関スルヲ以テ海上裁判所ノ權内ニ屬スルモノ
ニシテ所平法上ノ收復ヲ得セシム可キモノニ

係ル時ハ海上裁判所ニ於テ全ク衡平法律ニ法
上ノ收復ヲ得セシムルヲ得ルモノニシテ海上
裁判所ナルモノハ元来法律裁判所ノ資格ヲ有シ
又某件ニ付テハ衡平裁判所ノ資格ヲ有スル
モノナリ故ニ原告人ノ権利ニ自其終審ノ裁
決ヲ為スニ當テハ正理公道ト人情トヲ能ク講
究シテ或ハ契約ノ苛酷ヲ調和シ或ハ過當ノ討
求ヲ節限スルト往々之レアリ然レモ全ク海上
ニ関スル争訟ト虽凡例ハ契約ノ別段ノ遂行
又ハ受批等ニ関スルモノ、如ク衡平裁判所ニ
提起スルモノノ必要タル訴訟ニシテ海上裁判所
ニ於テ之レカ審判ヲ為シ能ハサルモノモ亦投
多之レアリ何トナレハ元来海上裁判所ナルモ

ノハ一般ノ衡平裁判所ニアラス又ハ衡平裁判
所ノ固有ノ権力ヲモ有スルモノニアラスシテ
唯タ全ク其性質ト組織上トニ依リ公理正道ト
衡平正当ノ規則トニ從テ其権内ニ属スル訴訟
ヲ裁決ス可キ責任アルニ過キサルヲ以テナリ
故ニ法律上ノ意義ニ擬シ時ハ決シテ之ヲ目シ
テ衡平裁判所ト称スルヲ得ス寧ロ司法裁判所
ト称スルハ反テ至當ナリトス
然レモ船ノ株主若クハ他人間ノ計美ニ関スル
條件ハ苟クモ其計美ノ海上ニ関スル條件ニ附
帶スルモノニ係ル時ニアラザルヨリハ海上裁
判所ニ於テ一モ其裁判権ヲ有スルモノニアラ
ス然レモ爰ニ古来ヨリノ判例ニ拠ルニ海上裁

判所ニ於テハ船舶ノ昏入質ノ受典者ト船主ト
ノ間ニ於ケル訴訟ニ関スル昏入質ノ裁判権モ
亦之ヲ有セサルモノニシテ該裁判所ニ於テハ
船舶ノ收贖ヲ禁シテ之ヲ賣却シ或ハ之ヲ受典
者ノ財産ニ移シテ之ヲ受典者ニ引渡ス可キコ
ヲ命スルノ權ナシトシ又他ノ判例ニ依テハ其
契約上差押ノ權アルモノハ唯タ昏入質ニ屬ス
ルニ過キサルモノニシテ未タ之ヲ以テ其裁判
權ヲ海上裁判所ニ移スニ足ラサルモノトス然
レモ斯ル區別ハ一般ノ海上律中ニハ未タ曾テ
之ヲ規定セシモノアラサルニ依リ若シ再ヒ斯
ル訴訟ノ起ルコトアルニ於テハ蓋シ必ス之ヲ改
正スルノ時機アルハシ

第一ニ船舶ヲシテ其航海ノ使用ニ供ス可キ目
的ヲ達セシムルノ使役ヲ為ス者ハ建造者ナリ
トス抑々建造者ナル者ノ船舶ヲ建造スルニ當
テハ熟練ト勞カト資本トノ三者ヲ蒐集シ之ヲ
合シテ初メテ其効ヲ奏スルモノニシテ苟クモ
建造者ノ使役ヲ為スニアラズレハ船舶ハ一モ
之ヲ以テ其至當ノ目的ヲ達レ能ハサル可シ他
ナシ船舶ハ建造者ノ使役ニ依ルニアラザレハ
得テ成立ス可キモノニアラザルヲ以テナリ是
ヲ以テ之ヲ觀レハ斯ル建造者ノ使役ハ僅令全
ク陸地ニ於テ之ヲ遂クルモ尚ホ海上ニ関スル
モノニ係ルコト明瞭ナリ之レト同一轍ニテ若シ
建造者、其建造セルトスル船舶ノ使用ニ供ス

可キ者、購求ス可キ資本ヲ供給シ又ハ若シ一
モ勞カヲ加フルニアラス或ハ材料若シハ貨幣
ヲ供給スルニモアラスシテ唯ク熟練ヲ尽シテ
其建造ヲ企圖指揮シ若シハ注意ヲ加ヘテ其建
造ニ従事スル他人ノ勞カヲ総轄スルニ過キサ
ルニ於テモ亦然リ及令建造者ハ瞬間ト虽尺水
面上ニアラスト虽尺尚ホ其建造者ノ使役ハ海
上ニ関スルモノナリ又ハ船舶ノ建造者ニ関ス
ル契約ノ如キモ之ヲ約スルニ言詞ヲ以テシト
書面ヲ以テセシトヲ問ハス又ハ明許ヲ以テセ
シト黙許ヲ以テセシモノトヲ論セス、
例ニ依ルニ締テ船舶ノ持主現有者及ヒ船匠者
ニ関スル契約中ニ属スルモノニシテ即チ其判
例ニ依ルニ締テ船舶ノ持主現有者及ヒ船匠者

ニ関スル條件ハ海上裁判所ノ裁判権内ニ属ス
ル者トス
曾テ商人渡船會社ヨリロキールス氏ニ對スル
訴訟ト及ヒローク氏ヨリチヤニカメレ氏ニ對
スル訴訟トニ於テハ裁判所ニ於テ之ヲ判決シ
テ船舶ノ建造ニ関スル契約ヲ以テ海上ニ関ス
ル契約ニアラストセリ然レテ其理由トスル所
ハ斯ル契約ハ陸地ニ於テ締結シ且陸地ニ於テ
遂行スルモノニ係リテ又其船匠ノ給料ノ如キ
ハ毫モ其船舶ヲ以テ遂行ス可キ航海ニ関スル
ニアラサルモノトスルニ在リ然レヒ船舶ヲ以
テ全ク陸地ニ於テ建造スルモノニ係ルト云フ
ハ敢テ、ヲ至當ト為スヲ得ス元來船舶ヲ建造

スルニ至テハ先ツ其船ノ龍骨ヲ海岸ノ斜ノナ
ル平面ニ据ヘ其船体ヲ建造シテ之ヲ水面ニ浮
ムルニ至ル迄ハ其建造ヲ保護シテ之レニ水流
ノ流入スルヲ防遏シ然シテ既ニ一艘ノ船舶ト
為リタル上ハ至當ノ時ヲ以テ之ヲ水面ニ浮ム
ルモノナリ又其船舶ノ龍骨ヲ据ヘシ時ヨリ之
レニ細具ヲ附クル時ニ至ル迄ハ未ダ一モ材料
ヲ整造セズ又ハ之レニ控釘ヲ打タズ又ハ板帆
索ノ滑車細具等モ亦苟クモ其船舶ヲシテ航海
ノ使用ニ供スル直接ノ目的ノ為ノ必要ナル時
ニアラサレハ敢テ之ヲ附スルモノニアラス又
船舶ハ陸地ニ在テハ全ク無用ノ廢物ニ屬スル
モノニシテ又得テ自立スルモノニモアラス又

ハ歩行スルモノニモアラスシテ全ク水面上ニ
於テ海上ノ通商貿易ノ使用ニ供シ之ヲ以テ海
上ノ貿易ヲ為スモノニシテ其船舶ヲ能ク製造
シテ久缺危難破船等ノ憂念ナカラシムルモノ
ハ全ク建造者ナリ是ヲ以テ之ヲ觀ル時ハ建造
者ノ契約ハ全ク海上ニ関スルモノニシテ又其
給料ハ其船舶ヲ以テ遂行ス可キ総テノ航海ニ
関スル一瞭然タリ然シテ總テ航海ヲ為シ得ハ
キ水面以テ水面上ノ破船等ヨリ及ヒ船舶船主
航海者船貨等ハ何レノ場所ニ在レヲ問ハス海
上ノ通商貿易ニ屬スルモノニシテ海上裁判所
ノ権限ニ屬スルハ論ヲ待タサルナリ
氏曰ク「海上裁判所ニ於テ船舶ノ建造機装

供給、豫備、賣買及ヒ其裁決等ニ関スル裁判權ヲ
有セサルニ於テハ、裁判官ノ職務ハ果シテ如
何ナルモノアルヤト宜ハナレカナ此言ヤ然シ
テ爰ニ有各ナル法律家ノ論說ニ拠ルニ其等ノ
人々ハ一人トシテ船舶ノ建造修理供給及ヒ其
航海等ニ関スル契約ヲ以テ海上律ニ屬スルモ
ノト為サ、ルモノナシ
爰ニ羅馬法ニ拠ルニ「何人ニ依ラス船舶ヲ建造
シ或ハ之レニ食料ヲ供給シ若シハ修理ヲ加フ
ル為ノ信任ヲ与ヘタル者ハ其船舶ニ付差押ノ
權ヲ有スルモノトシ」又何人ニ依ラス船舶ノ建
造、供給、豫備、修理等ノ為ノ信任ヲ与ヘタル時ハ
勿論尙ホ且其船舶ヲ賣却スル為ノ信任ヲ與ヘ

タル時ト雖モ亦其為ノニ信任ヲ與ヘタルモ
ハ其船舶ニ付差押ノ權アルモノナリトス（テゼ
ニシテ氏ノ著各第
四十二卷ノ第
六章第二十六
條及ヒ第
三十四條ヲ參
觀スヘシ）
又爰ニ海上領事書此各
章ニ見ユ解前
ニ拠ルニ「若シ新
夕ニ建造セル船舶ノ末夕船卸ヲ為サス若シハ
航海ヲ為サ、ル前ニ債主ヨリ提起スル許認ニ
於テ之ヲ賣却スル時ハ其器械者船師及ヒ其
他ノ職工等ニ其船舶ヲ建造スル為ノ必要ナル
材料、釘、控、漚青及ヒ其他ノ物品ヲ供給セシ者等
ハ若シ其船舶ノ建造ノ使用ニ供セシテヲ申明
スル唇面ヲ提供スルニ於テハ、總テ其等ノ者ヲ
以テ其債主若シハ貨幣ヲ貸附セシ者ト看做ス

可シトス海上領事各ノ第三十二章ヲ參觀ス可
シ
クレーラック氏モ亦氏ノ著各中ニ同説ヲ掲ケ
テ曰ク「船抵当ノ契約ハ特別ノモノニシテ船舶
ノ建築者、船茹師及ヒ其他ノ職工トモニ船舶ノ
建造或ハ修理ニ必要ナル松脂、瀝青、桶、材料、栓釘
及ヒ其他ノ物品ヲ供給セシ者等ノ給料ノ為メ
ニ允許セラレタル所ノモノナリト」(同氏海上裁
判權論三百五十一葉第六條ヲ參觀ス可シ)
又千六百九十一年ノ海上法例ニ定ムル所ノモ
ノモ亦同一ナリ即チ「海上裁判所ノ判事ハ總テ
船舶ノ建造、船具、網具、罟具、豫備、食料、賣買及ヒ裁
決等ニ関スル條件ニ付テハ何人ノ間ニ於ケル

モノヲ問ハス全ク其條件ニ関スル裁判權ノ特
權ヲ有スルモノトス(千六百九十一年ノ海上法
例第二篇ノ第一條ヲ參觀スヘシ)
又ハウアリシ氏モ亦同論ヲ以テ此法例ノ本條
ヲ評シテ曰ク「本條ニ記載セル船舶ノ建造、機装
供給、豫備、賣買及ヒ裁決等ニ関スル争訟ハ末々
曾テ起リシトナシト虽モ若シ海上裁判所ニ於
テ此等ノ條件ニ関スル裁判權ヲ有セザルニ於
テハ該裁判所ノ職務ハ果シテ如何ナルモノナ
ルヤト」(同氏ノ著各第一卷ノ百十三葉ヲ參觀ス
可シ)
又イノリコレ氏ハ氏ノ海上貸借論ノ四葉折ノ
五百六十六葉中ニ掲クル第十二章ノ第三條四

茶及ヒ五茶中ニ最項ノ法例及ヒ其他ノ同一ノ
布告ヲ引用シ之ヲ称讚シテ曰ク「凡ソ法律上ノ
保護ヲ受クルモノハ船舶ノ工業必要物等ノ代
價ヨリ過クルモノナカレ可ク然シテ之ヲ保護
スルハ大ニ通商貿易ト国家トノ共ニ便益ヲ受
クル所ノモノナリ又船舶ノ職工及ヒ其必要物
ヲ供給セシ者等ヲシテ其船舶ニ付海上法例中
ニ規定スル差押ノ權利ヲ享有セシムルハ全ク
正当ニシテ殊特許ハ苟クモ以等ノ者ノ敢テ其
船舶ヲ信任スルニアラスシテ全ク人ヲ信シテ
其工業ヲ加ヘ或ハ必要物ヲ供給シタル下ノ証
アル時ニアラサルヨリハ得テ之ヲ收奪スヘキ
モノニアラスト又ハ英國ノ判事ト虽モ皇帝ト

内閣執政トノ允許ヲ得テ千六百三十二年ノ決
議ヲ以テ左ノ如ク決定セリ即チ該決議ノ第三
条ヲ參觀ス可シ

若シ船舶ノ建造修理救助又ハ必要ナル食料ノ
供給等ニ付其船舶ニ関係アル者ノ姓名ニ對スル
ニアラスシテ例ヘハ其者ノ其船舶ニ付テ有スル
利益ニ對スルカ如ク全ク其船舶ニ對シテ海上
裁判所へ訴訟ヲ提起スル者アル時ハ仮令其訴
訟ノ條件ノ全ク内國ニ於テ為シタルモノニ係
ルト虽モ亦禁令状ヲ發出ス可カラストス
然シテ殊等ノ有者ナル法律家ノ著書ヲ講究セ
ル後尚ホ彼ノパレデス井ス氏ノ非常ノ勉勵ト
學カトヲ以テ其大部ナル著書(四葉折六冊)中ニ

蒐集セシ世界中航海ノ盛大ナリシ各國各都府
ニ於ケル海上律ノ原本ニ就テ觀ルニ往古ヨリ
ノ海上ニ於ケル習慣ヲ集録セシ法律昏ノ歴史
上ニ依ルモ又ハ其本文或ハ注解上ニ於ケルモ
共ニ船舶ノ建造修理供給等ニ関スル契約及ヒ
其契約上ノ船舶ノ差押權等ノ海上ニ関スルモ
ノニ係ルハ毫モ疑ヒラ容ルヘキモノナシ然レ
モ未タ憲法ノ設アラサリシ以前ニ在テハ憲法
ニ依テ海上律ヲ制定セヨ最モ碩学ナル判事ノ
裁決又ハ大審院ニ於ケル判決ト虽モ尚ホ諸州
裁判所ノ内國判事ノ能ク講究論明ヲモ尽サハ
ルニ箇ノ判例ヲ以テ之ヲ破毀スルヲ得タリ若
シ今日ヨリ之ヲ回顧スレハ蓋シ其不盡タルニ

驚カサレ者ナカレ可シ又船舶ノ差押ハ果シテ
通商貿易ノ妨害ト为リテ之ヲ衰微セシムルモ
ノニ係ルニ於テハ決シテ之ヲ海上律ニ屬スル
ヲ得サル可シ然レモ其差押ハ毫モ通商貿易ノ
妨害ト为ラサルノミナラス及テ之ヲ容易ナラ
シムルモノニシテ即チ船舶ノ建造者持主等ニ
在テハ之ヲ以テ信任上ノ輕便ナル担保トシテ
其船舶ノ落成ニタル上之ヲ賣却シテ其代金ノ
弁償ヲ受クルニ至ル迄又其船舶ニ修理ヲ加ヘ
若クハ供給ヲ受クル際ニ在テハ其航海ノ所得
ヲ以テ其船舶ノ計算ノ弁償ニ立ルニ至ル迄繼
續シテ其營業ヲ为シ得ルノ便益アルモノナリ
若シ否ラスシテ船舶ノ建造者或ハ持主等ニ自

身ノ他人ニ知己アラサレ場所ト或ハ知己アル
場所トヲ問ハス又ハ其船舶ノ附属スル本港ト
附属セサル場所トヲ問ハス如何ナル場所ニ在
テモ貨幣若クハ信任ヲ得ルノ方畧トシテ其船
舶ヲ使用スルヲ得サルモノトスルニ於テハ船
主ノ自此其船舶ヲ管理スル時ノ如キ為メニ如
何ナル便宜アル企計ヲ停止シ如何ナル通商貿
易上ノ勉カト熟練トヲ望シク廢物ニ屬シ又ハ
海上ノ不慮ノ災害ニ依テ如何ナル危難ニ罹ル
可キヤ是レ能ク海上ノ通商貿易ニ熟達スル者
ニアラサレヨリ得テ明知シ能ハサルナリイメ
リゴシ氏曰ク「船舶ノ職工及ヒ其必要物ヲ供給
セシ者等ヲシテ其船舶ニ付海上法例中ニ規定

セル差押ノ權利ヲ享有セシムルハ全ク正当ニ
シテ以特許ハ苟クモ以等ノ者ノ取テ其船舶ヲ
信任スルニアラサレシテ全ク人ヲ信任シテ其工
業ヲ加ヘ或ハ必要物ヲ供給シタルノ証アル
時ニアラサレヨリハ得テ之ヲ收奪スヘキモノ
ニアラスト又曰ク「允ノ法律上ノ保護ヲ受クル
モノハ以等ノ者ヨリ過クモノナカレ可ク然
シテ之ヲ保護スルハ通商貿易ト及ヒ國家トノ
共ニ便宜ヲ受クル所ノモノナリト又ツレヲ
リシベシキニス氏ノ如キハ若シ船舶ノ建造食
料ノ供給又ハ船舶ニ必要物ヲ供給シ或ハ工業
ヲ加ヘタル者等ニ関スル裁判權ノ果シテ海上
裁判所ニ屬サレモノトスルニ於テハ社會ト

商業上トノ不便ト爲ル可キモノヲ尋ケテ大ニ
之ヲ論明セリ
故ニ船舶ノ建造者ハ其船舶ノ建造ニ付延滞セ
ル工業ノ給料ヲ収復スル爲メ又ハ其建造ノ契
約ノ違背ニ付船主ニ對シテ海上裁判所ニ訴訟
ヲ提起スルヲ得ヘク又ハ其工業ノ爲メ其船舶
ヲ差押ユルノ權利ヲモ有スルモノニシテ其推
利ハ海上裁判所ニ於テ其執行ヲ受クルヲ得可
シ然シテ船舶建造ノ契約ハ海上ニ関スル契約
タルカ故ニ船主タル者モ亦其建造ノ契約ノ違
背ニ付建造者ニ對シテ海上裁判所ヘ訴訟ヲ提
起シ得ルハ固ヨリ論ヲ待タサレナリ但シ海上
ニ関スル契約ト又ハ然契約ヲ爲スヘキヲ約

シ若クハ之レニ先ツテ約シタル契約トノ間及
ヒ所約ノ全部若クハ一部ヲ既ニ遂行セル契約
ト又ハ未タ遂行セサル契約トノ間ノ區別ハ前章中
既ニ之ヲ論セレヲ以テ復タ爰ニ贅セサルニ依
リ詭者宜シク就テ觀ルヘシ
又前既ニ論述セル如ク船舶ハ船体ト及ヒ帆檣
帆架、横柱等ヨリ成ルモノナリ然シテ航海ノ機
装ヲ爲ス乃ノ船舶ニ船具、網具、器具及ヒ端舢等
ヲ供給スルトハ後令往々建造者ノ契約中ニ約
スルモノアリト虽モ然レモ例ヘハ船帆師、裝網師
匠工及端舢ノ建造者等ノ如キ全ク他ノ種類ノ人
々ノ爲メ可キ至當ノ職業ナリ然シテ其等ノ人
人ハ若シ船舶ノ船具、網具等ノ如キ其船舶ノ機

装ニ付テ各々其至当ノ職業ヲ為ス可キ雇入ヲ
受クル時ハ恰カモ建造者ト同一ノ海上ニ関ス
ル工業ヲ為ス者ニ係ルヲ以テ亦建造者ト同様
海上裁判所ノ権内ニ属スルモノナリ
船舶ノ建造者ニ次テ其船舶ヲシテ之ヲ建造ス
ル所以ノ大目的ヲ達セシム可キ使役ヲ為ス者
ハ必要物ノ供給者ナリトス然シテ総テ船舶建
造ノ時ニ於テ又ハ尔後船舶トシテ存留スルノ
間之レニ船長或ハ船主ノ明許若クハ黙許ノ求
メニ應シテ其建造、艦装、豫備、供給、或ハ修理等ニ
必要ナル物品ヲ供給スル者ハ之ヲ総称シテ必
要物ノ供給者ト云フ然シテ総テ等ノ船舶ヲ
シテ航海ノ艦装ヲ為シテ安全ニ航海ヲ為シ其

至当ノ職務ヲ遂クルニ必要ナル物品ヲ供給ス
ル者ハ若シ船長ノ求メニ應シテ供給セシ時ハ
船長ニ対シ若クハ否ラサル時ハ其船主ニ対シ
テ海上裁判所へ訴訟ヲ提起スルヲ得ハク又ハ
苟クモ双方ノ處分ニ依リ特ニ船長若クハ船主
ヲ信任シテ供給シタルノ証拠判然タル時ニ
アラサルヨリハ其船舶及ヒ其船具、網具、罟具等
ヲ差押ユルノ権利ヲ有スルモノナリ
之レト同一轍ニテ其他船舶ノ必要物ヲ供給ス
ル教多ノ人々モ亦然リ必要物ノ供給者トシテ
同一ノ権利ヲ有スルモノトス然シテ船舶ノ必
要物トハ唯リ理學上船舶ノ建造若クハ保存ニ
必要タルモノニシテ船舶ニ結合シ若クハ船中

ニ使用スルモノ、ミナラス尚ホ且船舶ヲシテ
能ク其海上ノ代人タルニ背カサル至当ノ職務
ヲ遂ケシムル為メ注意ヲ加フル船主ノ整備ス
ル者及ヒ其他船舶ヲ以テ遂行スヘキ使役ニ至
当至要ナルモノモ亦總テ必要物ナリトス故ニ
貨幣、藥劑、勞力、熟練、使役、物品又ハ水手ヲ召募シ
徵集シ雇入ル、又ハ船賃、旅客、船賃、雇船等ヲ
請求シ徵收シ供給スル、又ハ船舶ノ航海事業
ノ代商ヲ為シ仲買ヲ為ス、又ハ保險或ハ保險
料ヲ受クル、又ハ船舶ヲ挽扱シ或ハ其他ノ方
法ヲ以テ之ヲ運搬スル、又ハ一トシテ其中ニ包
含セサルナシ然シテ總テ此等ハ海上ニ関スル
契約トシテ判決セラレシモノニシテ全ク必要

物ノ性質ヲ帶テ船舶ノ必要ナルモノヲ供給ス
ルモノナリ元來船舶ノ必要物トスルモノハ敢
テ其必要物タル物品ノ性質ニ依テ然ルモノニ
アラス故ニ例ヘハ錨或ハ錨索等ハ通常之ヲ必
要物トスルト虽モ若シ船舶ノ既ニ充分之ヲ有
スル時ハ他ノ錨或ハ錨索等ハ一モ必要物ニア
ラサルナリ故ニ苟クモ船舶ノ要スル所ノモノ
ヲ供給シタルモノニアラサレハ未ダ以テ必要
物ト称スルニ足ラサレナリ

原註

曾テセイーン氏ヨリ西捲船ノ船長ニ對ス
ル訴訟ニ於テハ之レヲ判決シテ水桶ハ必
要物ナリトセリト虽モ醋ハ必要物ニアラ

又トセリ然シテ此區別アル所以ノ理由ハ
之ヲ弁明セスト虽代官人ハ終ニ其醋ニ
関スル討求ヲ擲棄セリ蓋シ是レ理由アル
可シト虽凡判決録中ニ之ヲ記載セサレハ
其如何ヲ知ルニ由ナシト虽凡元来醋ハ船
船ノ食料室ノ必要物ニシテ且法律上軍艦
ノ食料ノ一部ニ屬スルモノナリ(ウアシニ
カトシ氏判決録茅四卷ノ四百五十七葉ヲ
參觀スヘシ)

然レモ爰ニ古来ヨリノ判例ニ依ルニ航海ノ公
告料又ハ郵便税又ハ船賃ノ周施料又ハ船賃ノ
積入賃卸ニ從事スル者或ハ賃船ノ船人等ノ給
料又ハ船底ニ銅ヲ張ル最ニ之ヲ刮剝セシ費用

等ハ一モ之レニ船舶ヲ差押ユル權利ノ附着ス
ルモノニアラス又ハ物權ニ関スル訴訟ヲ提起
スル權利ヲモ附着スルモノニアラストシ又ハ
船中ニ積入ル可キ棉花ヲ壓搾スル如キモ全ク
海岸上ノ事業ニシテ其費用ハ一モ之レニ其棉
花ヲ積入ルヘキ船舶ヲ差押ユル權利ノ附着ス
ルモノニアラス故ニ物權ニ関スル訴訟ヲモ提
起シ能ハサルモノトス又ハ必要物ノ供給者ノ
内國船ニ供給セシ食料ノ供給修理及ヒ其他ノ
必要物ニ関スル討求モ亦千八百五十八年ノ改
正ニ係ル海上裁判所規則ノ第十ニ條ニ依リ之
レヲ判決シテ苟シクモ人權ニ関スル訴訟ニ依
ルニアラサレハ之レヲ收復スルヲ得サレモノ

トシ然シテ其改正ノ旨意ハ全ク差押ノ權ヲ諸
州ノ法律ニ委任シテ諸州ノ裁判所トシテ之レ
ヲ執行セシムルニ在リトス然レニ此等ノ判例
ハ一トシテ海上律ノ原則ニ適セサレモノ、如
シ故ニ將來再ヒ斯ル訴訟ノ起ルヲアルニ於テ
ハ蓋シ必ス之ヲ改正スルノ時機アル可シ

司法部記錄文庫

保
第八百八十八號
本三冊八四

米國海上法

第二

自第十七章續
至第十九章

第十八章

海上裁判所訴訟法及ヒ裁判

所構成ノ事

○海上事件ノ裁判權ニ就テハ業既ニ論述シタルヲ以テ今ヤ將ニ該裁判權ニ屬スヘキ事件ノ裁判ヲ行フノ方法ヲ説明セントス

所謂裁判ヲ行フヘキ方法トハ何ッヤ即チ訴訟法是レナリ而シテ其裁判ヲ行フ第一着ハ裁判所ノ構成ニシテ其結局ハ即チ其裁判ヲ執行スルニ當リ其裁判所ノ權カ如何ニアリトス

故ニ通常所謂海上裁判訴訟法トハ全ク海上裁判所ノ構成及ヒ權限及ヒ其訴訟ノ書式、方法、及ヒ規則其他職權上ノ義務及ヒ責任ヲ云フモノトス

海上裁判所ノ事

○合衆国ニ在テハ單ニ海上裁判所ノ資格ヲ有スル裁判所ヲ設ケス該国内ニ存マル所ノ裁判所ハ領地内ヲ除ク外即チ郡裁判所巡回裁判所及ヒ最上裁判所是レナリ

以上各裁判所ハ各々一定ノ海上事件及ヒ慣例法上ノ民事刑事及ヒ衡平法上ノ事件ヲ裁判スルノ権力ヲ兼有スルモノトス夫レ領地裁判所ハ通常政府ニ附與シタル司法權ヲ主管セシムヘキ憲法上ノ裁判所タルヘキモノニアラスシテ全ク政府中存在スル普通君主權及ヒ議院ヲシテ合衆国ニ屬スル所領地ニ關スル規則及ヒ條例ヲ制定セシムヘキ規定ニ

因テ創立スヘキ所謂立法上ノ裁判所ナリトス故ニ該裁判所ニ在テハ海上事件ヲ裁判スルノ權ナシ然レモ領地所在ノ立法官ニ於テ創設シタル裁判所ニ在テハ此權ヲ附與スルモノトス

郡裁判所ノ事

○合衆国ハ所領地ヲ除ク外通常州ヲ分チタル如ク之ヲ細別シテ數郡ト為セリ而シテ州ニ依テハ其人口及ヒ事件ノ多寡ニ從ヒ二郡以上ニ分チ各郡ニ一ヶ所ノ郡裁判所ヲ設ケ而シテ郡裁判官ト稱スル判事一名ヲ置キ之ヲシテ該裁判所ノ司法權ヲ悉ク行ハシムルモノトス郡裁判所海上裁判權ハ此各中前編ニ於テ既ニ詳説シタル事柄トス

夫レ郡裁判所ハ海上民事ノ訴訟ヲ裁判スヘキ
特別ノ權ヲ有スルモノトス今ヤ成法中左ノ條
件ヲ追加セラレタリ

允ッ合衆国輸入税則及ヒ航海又ハ貿易ニ関スル
法律ニ依リ其郡管内及ヒ海上即チ航行シ得
ヘキ水面ニ於テ十噸以上ノ船舶ノ行フタル差
押モ包含ス(一千七百八十九年頒布司法條例第

九節ヲ参照スヘシ)

此ノ如ク定メタルト雖モ此條款ハ毫モ該裁判
所ノ權限ヲ伸縮マル所ナシ何トナレハ該廳ノ
權カハ普ク航行シ得ヘキ水面ニ及ボスヘキモ
ノナレハナリ

允ッ郡裁判所ノ判事ハ其任ヲ受テタル郡内ニ

居住セサルヘカラス且ツ該裁判所ハ法律ヲ以
テ定メタル時ト場所トニ從ヒ一定ノ期限間之
ヲ開設スヘキモノトス但シ新約克南部地方ニ
於テ開廳ノ期限ハ毎月第一ノ火曜日トス
又該裁判所ノ判事ハ事件ニ依テハ其郡内ニ於
テ自己ノ選定シタル場所ニ於テ隨意ニ特別裁
判所ヲ開設スヘキ權アルモノトス

又海上事件ノ性質及ヒ海上事件ニ從事シタル
人ノ數名ニ至ル場合及ヒ關係者又ハ証人トシ
テ之レカ出頭ヲ要スル場合ニ當リ裁判上必要
ナリト認メタルハ往々裁判ヲ淹滞スルコト
リ此場合ニ當リ其裁判ヲ速行セシムル為メ前
上特別裁判所ヲ開設スヘキ權カヲ附與シタル

モノトス此他邑ノ海上部ニ於テモ亦屢々訴訟
審問ノ為ノ特別裁判所ヲ開設セシ慣例アリト
ス

新約克南部地方ニ在テ特別裁判所開廷期ハ通
常ノ開廷期ト相觸レサルハ常ニ毎火曜日ト
ス(一千七百八十九年司法條例第三節及ヒダン
ラップ氏訴訟手續ヲ參看スヘシ)

又裁判所ハ常ニ設立シタルモノニシテ判事モ
亦裁判所アレハ必スアルヘキモノナルカ故ニ
通常閉廷ノ時間中ニ訴訟ニ關スル諸般ノ令状
ヲ記スルヲ慣例トス特別裁判所ニ於テモ亦同
シ

若シ郡裁判所開廷期日ニ出頭スヘキ郡裁判所
判事出頭スルヲ能ハサル場合ニ在テハ該裁
判所ハ其廳ノ判事ヨリ其郡内ニアルマルシヤ
ル官ニ宛テタル命令状ヲ以テ次回ノ開廷期マ
テ該裁判ヲ延期スルカ若クハ次回ノ開廷期ニ
至ラサルモ其命令状中ニ定メタル期日マテ之
ヲ延期スルヲ得ヘシ

若シ又判事死去シタル場合ニ在テハ後任判事
ノ拜命受任ノ後開クヘキ期日マテ諸般ノ令状
及ヒ辨論手續ハ依然繼續スルモノトス(一千八
百四年三月頒布司法條例第一節及ヒ一千七百
八十九年頒布司法條例第六節及ヒ一千八百四
十二年八月頒布條例第五節ヲ參照スヘシ)

若シ又郡裁判所判事其職務ヲ行フ能力ナキハ

ハ其判事ノ受理シタル訴訟事件ハ後文ニ於テ
説明シタル如ク巡回裁判所ニ移轉スヘキモノ
トス

巡回裁判所ノ事

○各郡中邑ノ多少ニ依テ巡回裁判區ヲ分チ其
一區毎ニ一ヶ所、巡回裁判所ヲ設ケ判事三名
ヲ以テ定員トス即チ現ニ巡回裁判官タル任ヲ
受ケタル最上裁判所、判事及ヒ巡回裁判所ノ
判事及ヒ郡裁判所、判事はレナリ
如何ナル場合トモ巡回裁判所ハ判事一名若
クハ数名ヲ以テ之ヲ開クトヲ得ヘシ
又若シ郡裁判所ノ判決不服ノ上訴ヲ裁判スル
場合ニ在テ全ク自己ノ判決ヲ再審スルハ其

郡裁判所判事ハ其事件ニ干與スルトヲ得ス然
レモ其判決ヲ下シタル理由ハ之ヲ辯明スル丁
ヲ得ヘキモノトス(一千七百八十九年九月頒布
ノ条例第四節及ヒ成法類集第一篇ヲ参照スヘ
シ)

巡回裁判所ハ普通海上民事ノ裁判權ヲ有セサ
ルモノトス但シ郡裁判所ヨリ出テタル上訴ニ
係ルハ該事件ヲ裁判スルノ權アルモノトス
各郡中往々郡裁判所ニ巡回裁判所ノ權カヲ附
與セリ此場合ニ在テ其權カヲ行フハ之ヲ目
シテ巡回裁判所ト為スヘシ
允ソ裁判費用ヲ除キ五十弗ノ金額ヲ超ヘタル
海上事件ニ就キ郡裁判所ノ終審ノ裁判ニ對スル

上訴ハ其判決ヲ下シタル地方ニ於テ開クヘキ
巡回裁判所ニ於テ之ヲ裁判スヘキモノトス（一）
千八百三年三月頒布条例第二節ヲ参照スヘシ
此等ノ上訴ヲ審問判決スル場合ニ在テハ即チ
巡回裁判所ノ海上裁判權ヲ施用スルモノトス
又郡裁判所ノ判事其職務ヲ行フ能力ナキ場合
ニ在テハ即チ一千八百九年三月二日頒布合衆
国司法制度更改条例ノ趣旨ニ依テ其事件ヲ巡
回裁判所ニ移轉スヘキモノトス該条例ノ趣旨
左ノ如シ

第一条 凡ソ合衆国各郡裁判所ノ判事其郡
裁判所ヲ開キ而シテ其職務ヲ行フヘキ能力
ヲ有セサル場合ニ當リ其郡裁判所ヲ開設

シタル地方ニ於テ開設スヘキ巡回裁判所
ノ定員タルヘキ最上裁判所ノ判事ニ於テ
果シテ正実ナル証拠ヲ認メ而シテ該郡檢事
又ハゴザルシヤル官ヨリ最上裁判所ノ判事
ニ差出シタル願各ニ從ヒ該最上裁判所判
事ハ該郡裁判所ノ各記ニ對シ令狀ヲ發シ
之ヲシテ該裁判所ニ於テ未決中ノ事件ハ
如何ナル性質又ハ種類ノ訴訟ニシテ民事
ナルカ又ハ刑事ナルカヲ該郡内ニ於テ開
設スヘキ巡回裁判所ニ証明セシメ而シテ其
關係各類ヲ差出サシムヘシ但シ該令狀ハ
巡回裁判所ヲ開設スル三十日以前該郡内
ニ於テ發兌スル一種若クハ數種ノ新聞紙

ヲ以テ速ニ公告スヘシ然ル上ハ衆人之ヲ
熟知シタルモノト着做スヘシ

又巡回裁判所ハ該令状ニ依リ性質、如何
ナルヲ問ハス諸般ノ民刑訴訟ヲ恰モ郡裁
判所ニ於テ法律ニ従ヒ既ニ着手シタルト
同一ノ方法ヲ以テ受理シ而シテ之ヲ審理判
決スヘシ
又最上裁判所ノ判事ハ郡裁判所判事ノ不
在中ハ法律上該郡内ニ設置シタル郡裁判
所判事ニ附與シタル諸般ノ職推ヲ行フ
ヲ得ヘシ

又該郡裁判所ニ於テ領收シ或ハ納付スヘ
キ諸般ノ証券又ハ該裁判所ノ認許ハ此条
例ノ趣旨ニ基キ他日開設スヘキ巡回裁判
所ニ引継キ恰モ郡裁判所ニ於ルト同一ノ
効力ヲ有スルモノトス

但シ該巡回裁判所区内ニアル最上裁判所
ノ判事ノ請求ニ依テハ合衆国巡回裁判所
開設期限外ニ於テ特別裁判所若クハ海上
裁判所ヲ開設スルハ此条例中毫モ抵觸ス
ル所ナカルヘシ

第二條 郡裁判所ノ書記ハ該裁判所判事不
在中受理シタル諸般ノ訴訟事件ノ性質又
ハ種類如何ヲ前上ノ如ク証明シ而シテ之ヲ
他日該郡内ニ於テ開設スヘキ巡回裁判所
ニ移送スヘシ

又該巡回裁判所ハ此条例中前上既ニ定メタルト同一ノ方法ニ従ヒ之ヲ受理シ而シテ之ヲ審理決定スヘシ

然レモ郡裁判所ノ判事其判事タルノ能力ヲ得或ハ他人ヲシテ其判事ニ代ラシメタルハ前キニ法律ニ従ヒ郡裁判所ニ於テ受理シタル諸般ノ訴訟ニシテ未ダ巡回裁判所ノ判決ヲ經サル者ハ再ヒ郡裁判所ニ於テ之ヲ受理スヘキモノトスルカ故ニ右巡回裁判所ノ各記ハ該廳ノ命令ニ従ヒ之ニ關係スル諸般ノ事物ト俱ニ之ヲ次回ニ其郡内ニ開設スヘキ郡裁判所ニ移送シ而シテ該郡裁判所ニ在テハ恰モ最初ヨリ其事件ヲ受理シ或ハ継続シタルト同一ニ之ヲ處分スヘキモノトス

第三條 各郡裁判所ノ判事前上ノ如ク其職務ヲ行フ能ハサル場合ニ在テハ該郡裁判所ノ各記ハ該廳ヲ管轄スル巡回裁判所ノ判事ノ允可又ハ命令ニ依リ該判事ノ不在中諸般ノ審問及ヒ証人ノ訊問ヲ行ヒ且ツ海上裁判權ニ屬スヘキ諸般事件ノ審問ニ關係スル須要ノ規則及ヒ命令ヲ制定ス可キ権アルモノトス

此条例ノ第三條ニ基キ巡回裁判所ノ判事タル最上裁判所ノ判事ヲシルソシ氏ハ左ニ掲ケタル書式ニ依リタル命令状ヲ發セリ

新約克南部地方ノ郡裁判所判事ホシ、サ
ミユール、アル、ベツツ氏ハ疾病ニ罹リ其
職務ニ從事スル能ハサル所以ヲ余ニ於
テ確認シタルヲ以テ該郡判事ノ不在中
該郡裁判所各記ゼームス、ダフリウ、ソツ
カル、氏ニ於テ証人ノ訊問ヲ行ヒ及ヒ
一千八百九年三月二日頒布議院決議書
ノ趣旨ニ基キ海上諸般ノ事件ノ審理ニ
關スル諸般必要ノ規則及ヒ命令ヲ制定
發行スヘキヲ命スルモノナリ

於華聖頓一千八百五十年一月二十八日

サミユール、子ルソン

此命令状ハ旧来郡裁判所ノ記録中ニ登記セラ

レ而シテ各記ハ其趣旨ニ基キ裁判所開設中訴訟事
件ノ目錄順序ニ從ヒ海上事件ノ訴訟ヲ審理シ
而シテ辨論ヲ審聽シ事件ヲ判決スルノ外總テ判
事ニ屬スル諸般ノ職權ヲ行フモノトス
此場合ニ於テ各記ハ調書ヲ作り判事ハ其調書
ニ依リ原被両造ヲ審問シタル後之レカ判決ヲ
下スモノトス

合衆國各郡裁判所ニ於テ受理シタル諸般ノ訴
訟上若シ該廳ノ判事其訴訟ニ關シテ利害アル
カ又ハ原被一方ノ代言人タリシカ又ハ此他原
被一方ノ者ト關係アリ該判事ニ於テ此等ノ訴
訟審問ヲ遂ルハ不適當ト思料シタルノ証判然
タル片ハ原被一方ノ者ノ情願ニ依リ其事實ヲ

裁判所ノ記録中ニ登記スルヲ即チ談判事ノ職分ナリトス

此場合ニ於テ其訴訟各類ト俱ニ前上ノ公正ノ騰本ヲ其郡ニ於テ開設スヘキ巡回裁判所若シ又該郡ニ於テ巡回裁判所ヲ開設セサルハ其州ニ於テ開設スヘキ巡回裁判所又或ハ該州ニ於テモ該裁判所ヲ開カサルハ其接近ノ州ニ於テ開設スヘキ巡回裁判所中便益ニ從ヒ之ヲ証明ス可キヲ命スヘキモノトス

前上ノ証明ヲ受ケタル巡回裁判所ハ書記ノ送致シタル各類ニ從ヒ恰モ其裁判所ニ於テ最初ヨリ着手シタル時ト同一ノ方法ヲ以テ其事件ヲ受理シ而シ之ヲ審問決定スヘキモノトス

前上巡回裁判所ノ権カハ其事件ヲ移送シタル裁判所ニ於テ受理シタル諸般ノ訴訟事件ニモ亦及ボスヘキモノトス

最上裁判所ノ事

○凡ソ合衆国ノ最上裁判所ハ判事長一名及ヒ補助判事八名ヲ以テ成立スルモノトス而シテ該廳ハ總テ大使若クハ其他ノ全権公使或ハ其屬官或ハ屬官ノ奴僕ニ對スル海上民事ノ訴訟ヲ恰モ法律裁判所ニ於テ常ニ裁判スルト等ク特別ニ之ヲ判決スルノ権アルモノトス

此他猶ホ一州カ訴訟關係者タル場合ニ係ル海上民事ノ訴訟ヲモ亦判決スルノ権アルモノトス但シ州ト其人民ト或ハ他州ノ人民或ハ外国

人トニ関スル場合ハ此限ニアラヌ
 又州ト他ノ州ノ人民或ハ外国人ノ間ニ生スル
 海上民事ノ普通即チ特別ナラサル訴訟及ヒ大
 使或ハ其他全權公使或ハ領事又ハ副領事ノ関
 係シタル訴訟ヲ裁判スルノ權アルモノトス
 最上裁判所ハ猶ホ海上事件ヲ裁判スル場合ニ
 於テハ郡裁判所ニ對シ禁令状ヲ發スヘキ權ア
 リトス
 又最上裁判所ハ争訟ノ金額裁判費用ヲ除キ二
 千弗以上ニ至ルヘキ海上事件ニシテ即チ巡回
 裁判所ニ於テ判決シタル事件ノ上訴ヲ裁判ス
 ルノ權アリトス(一千七百八十九年頒布司法条
 例第十三節ヲ参照スヘシ)

前上裁判所ノ判事ハ上院ノ議決及ヒ認可ヲ經
 テ合衆国大統領ニ於テ之ヲ命任シ而シテ惡業
 ルニアラサレハ之ヲ黜免セサルモノトス但シ
 其職務ニ従事スル以前先ツ左ノ宣誓ヲ行ハサ
 ルヘカラス

宣誓書

余何某ハ人ノ如何及ヒ其責當ニ依テ公平
 ヲ曲クルトナク裁判ヲ行ヒ而シテ判事トシ
 テ余ニ附與シタル諸般ノ職務ヲ合衆国憲
 法及ヒ法律ニ依テ正ニ余ノ識認シタル所
 ニ正実ニ行フトヲ茲ニ誓言スルモノナリ
 神明幸ニ余ヲ擁護セヨ

(一千七百八十九年頒布司法条例第八節ヲ参照スヘシ)

前上判事ノ命任各ハ國務省ヨリ發出シ而シ其
命任書ニハ草ニ職務ノ命任ニ止マリ其捧給或
ハ権力又ハ特權ノ如キハ記録セサルモノトス
故ニ談判事ノ職務及ヒ権力及ヒ特權如何ヲ見
ント欲セハ須ク議院ノ法律ニ依ルヘキモノト
ス
郡裁判所判事ノ命任各ハ左ニ掲ケタル各式ニ
從フモノトス

○亞米利伽合衆国大統領「アンドロウ、ジヨ
ンソン」敢テ公衆ニ告ク
新約克所任「カミエウ、ルアラツチ、フオー、ド
ノ聰明正実及ヒ博學ナルヲ特信シタルヲ
以テ余ハ同氏ヲ奉テ上院ノ議決及ヒ認可

ヲ徑テ新約克南部地方ニ設立スル合衆国
郡裁判所判事ニ任シ而シ合衆国憲法及ヒ
法律ニ從ヒ其職務ヲ行フヘキ權ヲ附與シ
且ツ惡行アルニ至ルマテハ右職務ト右「カ
ミエール、アラツチ、フオー、ド」タル彼レニ屬
スル権力特權及ヒ捧給トヲ保セテ保有ス
ルモノトス
右正実ナルヲ証スル為メ茲ニ此文ヲ記シ
保セテ合衆国ノ印章ヲ鈐シ一千八百六十
七年即チ亞米利伽合衆国獨立第九十二年
七月十六日華聖頓府ニ於テ余親ク之ヲ授
與スルモノナリ

大統領「アンドロウ、ジヨンソン」

司法省

國務卿 ウヰリヤム、エツチ、セーウワードへ

即裁判所判事ノ命任昏ハ通常其判事ノ坐位ヲ定メタル日ヲ以テ命令ニ從テ之ヲ裁判所ノ記録中ニ記入スヘキモノトス其昏法ハ即チ左ノ如シ

判事ニ任セラレ而シテ法律上定メタル宣誓ヲ行フタルヲ以テ即チ其坐位定リシカ故ニ其命任書ハ記録中ニ記入スヘキヲ命スルモノナリ

允ソ最上裁判所及ヒ郡裁判所判事ハ巡回裁判所ノ判事タルヘキ獨立ノ權ヲ有セサルモノトス但シ巡回裁判所ノ判事ハ左ノ書式ニ依リタ

ル命任書ヲ得ルモノトス

○亞米利伽合元国大統領ユリセス、エス、グ
ラント敢テ公衆ニ告ク

新約克所住^レウヰス、ヒードラツ^レノ聰
明正実及ヒ博學ナルヲ信認シタルヲ以
テ余ハ同氏ヲ擧ケ上院ノ議決及ヒ認可ヲ
ヲ經テ之ヲ合衆国^ノ二巡回裁判所ノ判事
ニ任シ而シテ合衆国ノ憲法及ヒ法律ニ從ヒ
其職務ヲ行フヘキ權ヲ附與シ且ツ惡行ア
ルニ至ルマテハ右職務ト右^レウヰス^レ
ウードラツタル彼レニ附屬スル諸般ノ權
カ及ヒ特權及ヒ捧給トヲ保セテ保有スル
モノトス

右正実ナルヲ証スル為ニ茲ニ此文ヲ記シ
保セテ合元国ノ印章ヲ鈐シ一千八百六十
九年即チ亞米利伽合元国独立チ九十四年
十二月二十二日華聖頓府ニ於テ余新シク
之ヲ授與スルモノナリ

大統領ユリ、且ス、グラント

國務卿ハミルトン、フギシヘ

凡ソ巡回裁判所ノ判事ハ其巡回裁判区内ニ居
住スヘキモノトス（一千八百六十九年四月十日
頒布条例ヲ参照スヘシ）
又海上事件ニ於テハ特別ニ判事ノ命任モ亦裁
判所ノ設立モ之レナキモノトス即チ海上事件
ヲ審理スヘキ場合ニ在テハ所謂海上裁判所ト

為リ又刑事ヲ審理スルニ當テハ即チ刑事裁判
所ト為ルナリ故ニ場合ニ依テハ海上事件ノ審
問却テ慣例法ノ訴訟ト為リ慣例法ノ審問變シ
テ海上事件ノ審問ト為ルヲ往々少シトセス故
ニ同一ノ裁判所ニシテ審問ノ都合ニ依テハ或
ハ海上裁判所ト為リ或ハ衡平裁判所ト為リ又
或ハ民事刑事ヲ裁判スル權ヲ有スル慣例裁判所
トナルヲアリト雖モ苟モ其事件ノ種類ニ依テ
之ヲ固着シタル一定ノ法式アル場合ノ外名義
法式官吏又ハ記録ヲ變更セサルモノトス
故ニ通常同一ノ裁判所ニ於テ一事件又ハ他ノ
事件ヲモ裁判スヘキモノトス今茲ニ論スル所
ハ即チ海上裁判所ノ場合ナリトス

凡ソ判事ハ代書代言人ノ職務ヲ行ヒ訴訟ニ干
與スヘカラサルモノトス(一千八百十二年十二月
十八日ノ条例ヲ参照スヘシ)
前上掲ケタル裁判所ハ總テ其権カヲ使用スル
ニ必要ナル場合ニ在テハ法理及ヒ習慣ニ從ヒ
諸般ノ令状ヲ發行スヘキ権アルモノトス
又印章ヲ鈐シ或ハ總テ須要ナル誓詞若クハ証
言ヲ命シ或ハ認メ且ツ訴訟事件ニ関スル職權
ニ違背シ或ハ審問ノ際違令ノ罪ヲ犯ス者アル
中ハ其意見ヲ以テ之ヲ罰金若クハ禁錮ニ處ス
ヘキ権アルモノトス
此他猶ホ該裁判所ニ於テ事務処分上必要ナル
諸般ノ規則ヲ制定スヘキ権アリ但シ此規則ハ

合衆国ノ法律ニ違背シタルモノナルハ格別
ナリトス(一千七百八十九年頒布司法条例才十
四節及ヒ才十七節及ヒ一千七百八十九年九月
二十九日頒布条例第一節ヲ参照スヘシ)
凡ソ海上裁判所ニ於テ其固有ノ権カヲ使用ス
ル場合ニ在テハ公平及ヒ法律上ノ権カヲ行フ
トヲ得ヘキモノトス
若シ今事件ハ海上ニ係リ而シテ海上裁判所ノ権
内ニ屬スヘキモノナリト雖モ之レカ判決ヲ下
スニ當テハ須ク公平上ノ方法ニ依ラサルヘカ
ラサル性質ヲ具ヘタルモノアルハ裁判所ニ
於テハ公平及ヒ法律上ノ方法ヲ以テ之ヲ裁判
スルヲ適當トス是レ場合ニ依テ法律裁判所ト

為リ公平裁判所タル所以ナリ

又原被両造ノ權利如何ヲ判決スル場合ニ當テ
往々道理公正及ヒ慈仁上ヨリ過酷ノ契約ヲ寬
裕ニシ又不当ノ請求ヲ為ス者ハ之ヲ適度ニ減
セシムルヲアリトス

又從來公平裁判所ニ於テ受理シ來レル契約ノ
特別執行及ヒ受托等ノ如キ重大ノ事件ニシテ
海上事件ニ係ル争訟タルヲ判然タル場合ニ於
テハ海上裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得ル
モノトス

元來海上裁判所ハ通常衡平裁判所タルヲ得サ
ルノミナラス衡平裁判所ノ權カヲモ亦全ク有
セサルモノト雖モ場合ニ依テ其裁判所ニ於テ

衡平事件ヲ受理シタルハ事件ノ性質ニ從ヒ
衡平上ノ原則及ヒ公正ノ規則ニ依テ之ヲ判決
スヘキ責任アリトス此場合ト雖モ之ヲ稱シテ
衡平裁判所ト云ハスシテ一箇ノ正義裁判所ト
名付クヘシ

海上裁判所ニ於テ其權カヲ使用スルニ當テハ
左ノ三大權ヲ行フモノトス

海上裁判所ハ甲乙兩人ノ間ニ生マル海上民
ノ訴訟ヲ審問判決スヘキ始審裁判所タルハ
シ

又該廳ハ議院ノ決議法ニ依テ附與シタル海
上犯罪ヲ審紀裁断スヘキ刑事裁判所タルハ
シ

又諛廳ハ海上戦利ニ関スル諸般ノ争訟ヲ判
決スヘキ戦利裁判所タルヘシ
前上所謂始審裁判所及ヒ戦利裁判所タル場
合ニ在テハ陪審ノ助ヲ請ハス独リ裁判所ニ
於テ之ヲ審理決定スヘキモノトス然レモ刑
事裁判所タル場合ニ在テハ刑事裁判権ヲ有
スル慣例裁判所ト等ク大小ノ陪審ノ助ヲ請
ヒ海上ノ犯罪ヲ判決スヘキモノトス

裁判所書記ノ事

各裁判所ハ総テ書記ヲ命任スルノ權アルモノ
トス但シ之ヲ命任スルノ權ハ判事ニ附與セ
シテ即チ裁判所ニ附與シタルモノナリトモ
判事命任証書ヲ作り之ヲ命任スルモノトス

右命任書ハ通常裁判所ノ命令ニ依テ之ヲ其記
録中ニ記入スルヲ規則トス而シテ各記ハ其職務
ニ従事スル以前先ツ左ノ宣誓ヲ行フヘキモノ
トス

宣誓書

余何基ハ何地裁判所ノ書記ニ任セラレタ
ルカ故ニ余ハ諛裁判所ノ諸般命令指令判
決其他ノ各類ヲ正実ニ記録シ且ツ余ノ識
認スル所ニ從ヒ余ノ職務ヲ正実ニ行フヘ
キヲ茲ニ宣誓スルモノナリ神明幸ニ余
ヲ擁護セヨ

又書記ハ正実ニ其職務ヲ行ヒ及ヒ裁判所ノ判決ヲ
記録スヘキ為メ金額二千弗ニ相當シ且ツ充分

ノ保証(裁判所ニ於テ選定シタルモノ)ヲ具ヘタ
ル証各ヲ合衆国ニ對シ差出スヘキモノトス(司
法條例第七節ヲ参照スヘシ)
又書記ハ海上事件ニ於テ通常裁判所ノ各記ニ
屬スル諸般ノ事務即チ裁判所ノ各類ヲ受付シ
裁判所ノ印章ヲ着守押捺シ裁判所ノ命令ヲ登
シ及ヒ裁判所ニ於テ宣誓ヲ命シ保釈ヲ許可ス
ル等ノ事ヲ處理スヘキ職分アルモノトス但シ
此等ノ諸件ヲ行フニ當テハ裁判所ノ使丁ヲシ
テ書記ヲ補助セシムルモノトス
各記ハ又成法上或ル場合ニ於テハ保釈ヲ許可
シ及ヒ証人訊問各ヲ録シ及ヒ前キニ論述シタ
ル如ク判事欠席ノ場合ニ於テハ數多ノ事務ヲ

處理スヘキ權アルモノトス
又通常開廷期限中各記ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ
納付シタル諸般ノ金額ト其納付シタル理由ヲ
詳記シタル計算各ヲ裁判所ニ差出スヘキ職分
アリトス但シ右計算各ハ証各ヲ添ヘテ差出ス
ヘキモノトス
此他尚本書記ハ前上ノ金額ヲ納付スルニ就キ
裁判所ヨリ下シタル命令ヲ遵奉スルヲ肯セ
ス或ハ怠リタル場合ニ於テハ其違令ノ罪ニ對
シ告訴ヲ受クヘシ(一千七百九十二年五月八日
頒布ノ決議各第八條及ヒ第十條及ヒ一千八百
九年三月二日頒布ノ決議各及ヒ一千八百十七
年三月三日頒布ノ決議各ヲ參看スヘシ)各記ハ

